

学 生 便 覧

令和8年度
(2026)



大学院総合学術研究科

目 次

I	総合学術研究科の概要等	2
1	総合学術研究科の概要	
2	学位プログラム	
3	養成する人材像及び学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）	
4	教育課程編成の方針（カリキュラム・ポリシー）	
5	新潟大学大学院総合学術研究科規程	
II	修学上の注意事項	47
III	学位プログラム及び学位の名称	51
	○各学位プログラムにおける取得学位に関する履修方法	
	○学位共通科目群と学位付記の専門分野	
IV	学位	65
V	学生生活	77
VI	資格取得等	82
VII	関係規程	85
	新潟大学大学院総合学術研究科における長期にわたる教育課程の履修に関する細則	
	新潟大学大学院総合学術研究科に係る授業科目の成績評価に対する不服申し立て等に関する要項	
VIII	特色ある教育プログラム	88
IX	他大学院との単位互換	112

I 総合学術研究科の概要等

I 総合学術研究科の概要等

1 総合学術研究科の概要

新潟大学大学院総合学術研究科は、令和8年4月に、学問分野ごとの教育組織の分断を可能な限り取り払い、学生が多様な視点を持って学び、社会の複雑な課題の解決に「専門性」と「総合知」で挑戦できる能力を養成できる大学院として、従来の現代社会文化研究科と自然科学研究科を統合した新たな研究科として設置されました。

本研究科においては、文系学部及び理系学部それぞれに接続する二つの専攻を設けていますが、異分野の教員や学生が共同して学び合う「学際的基盤科目」を全学生に統一的に提供することで、専門分野を探究しつつ広範な視野を持てるようにしています。これにより、学生は多様な分野の知識や思考方法を統合し、実社会の複雑な課題に対して多角的なアプローチを取る能力を得ることができます。

この組織形態により、本大学院では、学士課程で修得した専門基礎を深めることも、専門基礎をベースに学際的な広がりを探ることも、どちらも可能となっています。学生の「高度な専門性」と「総合知の創生力」を高め、社会的な貢献を果たすために必要な創造性と問題解決能力を備えた人材を育成することを目指します。

なお、博士後期課程は令和10年4月に設置し、区分制大学院への移行を予定しています。

総合学術研究科の理念・目的

本学の理念「自律と創生」に基づき、地域や世界の着実な発展に貢献することを目的とし、複数の領域を横断する広い学識と高度な専門的知識・スキル及び態度・姿勢を基礎に、単一の専門知のみでは解決できない人間や社会の課題を解決できる、すなわち「総合知」を創出する場で課題解決に主体的・協働的に取り組み活躍できる人材を育成することを設置の理念としています。

上記の理念を実現させるために、本研究科では以下の目的を定めています。

本研究科の目的

現代における科学の発展、持続的で共生可能な人類社会の形成及び多様性に富んだ文化の構築に向けて、人文科学、社会科学又は自然科学に関する高度な専門的知識及び幅広い「知」の統合のための学際的素養を礎として、独創性豊かな優れた研究能力を備え、自ら設定した「問い」を探究し課題を解決できる能力を有した人材の育成を目的とする。

2 学位プログラム

本研究科では教育課程を学位プログラムにより編成し、各専攻を専門深化型学位プログラム群・新潟学際型学位プログラム群で構成しています。専門深化型学位プログラム群は、伝統的で確立した学問分野を基盤としつつも、複数の分野を大括り化することで、自らが専攻する学問分野の特性を他の分野との関係において理解し、専門の一層の深化と新たな発見を目指しています。新潟学際型学位プログラム群は、新潟大学の特色と強みを活かし、新たな学問分野を、学際的かつ大胆に切り開く個性的な学位プログラムを設けています。

次の表に示すように、修士課程には専門深化型学位プログラムとして人文社会科学専攻に二つ、自然科学専攻に三つの学位プログラムを、新潟学際型学位プログラムとして人文社会科学専攻に二つ、自然科学専攻に六つの学位プログラムを設置しています。新潟学際型学位プログラムのうち文理融合型である、アニメ・映像資源科学プログラム、日本酒学プログラムの2プログラムについては、二つの専攻が共同で運営しています。

学位プログラム一覧

修士課程	
<p>(専門深化型学位プログラム)</p> <p>人間社会科学専攻</p> <p>人間文化科学プログラム 現代社会科学プログラム</p> <p>自然科学専攻</p> <p>物質創成・基礎科学プログラム システム創成科学プログラム 生命環境・食料科学プログラム</p>	<p>(新潟学際型学位プログラム)</p> <p>人文社会科学専攻</p> <p>アニメ・映像資源科学プログラム 日本酒学プログラム</p> <p>自然科学専攻</p> <p>アニメ・映像資源科学プログラム 日本酒学プログラム 情報社会デザイン科学プログラム カーボンニュートラル融合科学プログラム フィールド科学プログラム ひと脳・健康科学プログラム</p>

3 養成する人材像及び学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）

養成する人材像

本研究科は、本学の理念「自律と創生」に基づき、ライフ・イノベーションのフロントランナーとして地域や世界の着実な発展に貢献することを目的とし、複数の領域を横断する広い学識と高度な専門的知識・スキル及び態度・姿勢を基礎に、単一の専門知だけでは解決できない人間や社会の課題解決、すなわち「総合知」を創出する場で課題解決に主体的・協働的に取り組み活躍する人材を育成します。

ディプロマ・ポリシー

学位プログラム修了認定（学位授与）の方針

所定の期間在学し、人材育成の目標に沿って、各学位プログラム等で定める「知識・理解」「当該分野固有の能力」「汎用的な能力」「態度・姿勢」の資質・能力を修得し、修了要件を満たした者に、修士の学位を授与します。なお、学位に付記する専攻分野の決定に関する条件は各学位プログラムで定めませんが、修士（学術）は二つの異なる分野のモジュールを一つずつ修了すること、それ以外は一つの学位の分野のモジュールを二つ修了することを基本とします。

到達目標

知識・理解

- ・複数の分野を横断する学際的知識を修得している。
- ・当該学位に紐づく高度な専門的知識を修得している。

当該分野固有の能力

各学位プログラムで設定する

汎用的な能力（トランスファラブルスキル）

- ・高度な言語（英語を含む）スキルを駆使し、専門的かつ多様な文脈で効果的に情報を伝達できる。（コミュニケーション Communication）
- ・同じ専門分野の者のみならず、異なる専門分野や背景を持つ者を尊重して協働し、共通の目標に向けて効果的にチームワークを発揮できる。（コラボレーション Collaboration）
- ・多様な情報に対し、必要であればデータサイエンススキルや ICT スキルを駆使して論理的に分析し、批判的に検討することができる。（批判的思考 Critical Thinking）

- ・収集・分類・整理した情報を基に、革新的なアイデアや新たな知識を創造するために思考することができる。(創造的思考 Creative Thinking)
- ・特定のテーマやイシューに関して、複数の視点から分析し、課題解決に活かすことができる。(学際的思考 Interdisciplinary Thinking)

態度・姿勢

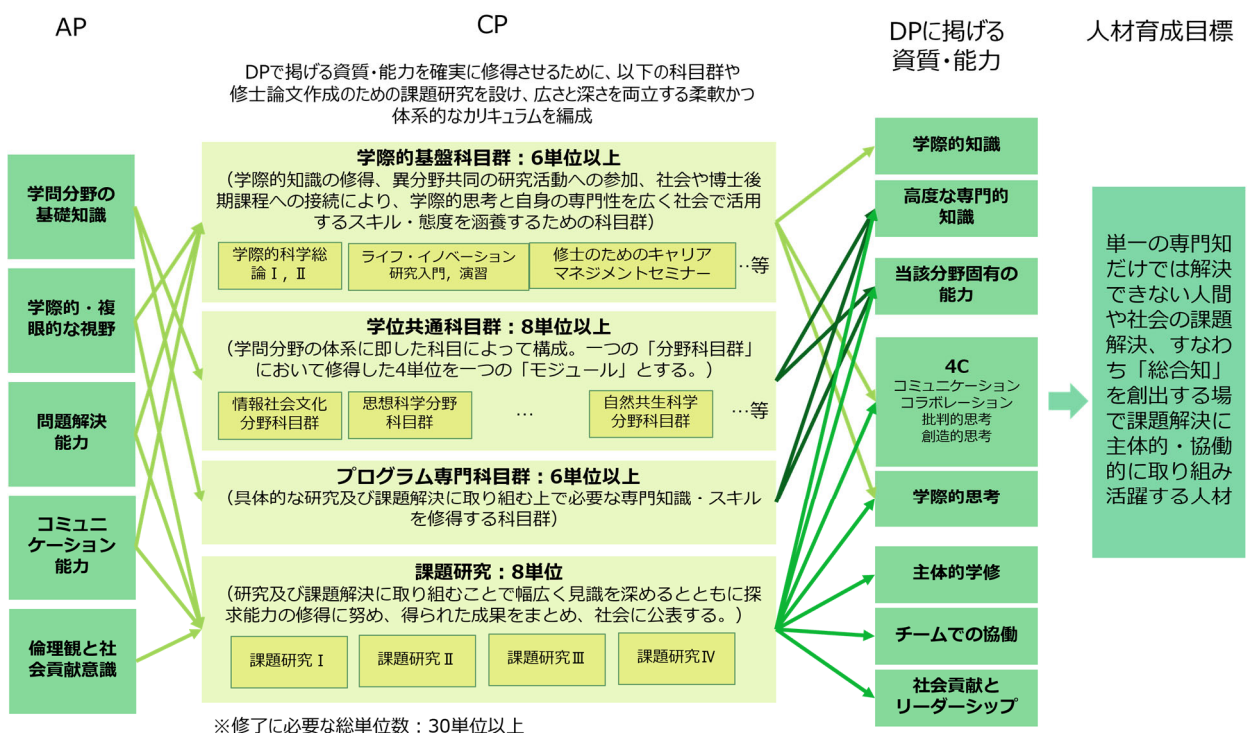
- ・現代社会の多様で複雑な課題に対して、継続的な関心を持ち、自ら学び続けようとする姿勢を備えている。
- ・チームでの協働や情報の共有を円滑に進める姿勢を備えている。
- ・地域社会や国際社会に積極的に貢献し、リーダーシップを発揮する姿勢を備えている。

4 教育課程編成の方針（カリキュラム・ポリシー）

「総合知」を創出する場で課題解決に主体的・協働的に取り組み活躍する人材として必要な資質・能力を確実に修得させるために、

- ・学問分野の体系に即した複数科目によって構成された学位共通科目群（一つの「分野科目群」において修得した4単位を一つの「モジュール」とする）
- ・当該学位プログラムにおいて専門性を深めるための体系的な専門科目
- ・学際的知識・複数の研究方法論とトランスファラブルスキルを修得するための学際的基盤科目群
- ・以上を統合する課題研究と研究指導

を組み合わせ、広さと深さを両立する柔軟かつ体系的な教育課程を編成しています。



5 新潟大学大学院総合学術研究科規程

(令和8年4月1日院総規程第1号)

(趣旨)

第1条 新潟大学大学院総合学術研究科(以下「研究科」という。)の教育方法、学生の履修方法、修了の要件等に関し必要な事項については、新潟大学大学院学則(平成16年大学院学則第1号。以下「大学院学則」という。)に定めるもののほか、この規程の定めるところによる。

(課程)

第2条 研究科の課程は、修士課程とする。

(専攻及び学位プログラム)

第3条 研究科に置く専攻及び学位プログラムは、別表第1のとおりとする。

2 前項に掲げる学位プログラムに関し、必要な事項は別に定める。

(教育研究の目的)

第4条 研究科は、現代における科学の発展、持続的で共生可能な人類社会の形成及び多様性に富んだ文化の構築に向けて、人文科学、社会科学又は自然科学に関する高度な専門的知識及び幅広い「知」の統合のための学際的素養を礎として、独創性豊かな優れた研究能力を備え、自ら設定した「問い」を探究し課題を解決できる能力を有した人材の育成を目的とする。

2 研究科の各専攻の目的は、次に掲げるとおりとする。

(1) 人文社会科学専攻は、現代における人文科学及び社会科学の発展、持続的で共生可能な人類社会の形成及び多様性に富んだ文化の構築に向けて、人文科学及び社会科学に関する高度な専門的知識及び幅広い「知」の統合のための学際的素養を礎として、独創性豊かな優れた研究能力を備え、自ら設定した「問い」を探究し課題を解決できる能力を有した人材を養成する。

(2) 自然科学専攻は、理学・工学・農学の各学問領域を包含する自然科学の発展及び持続的で共生可能な人類社会の形成に向けて、自然科学に関する高度な専門的知識及び幅広い「知」の統合のための学際的素養を礎として、独創性豊かな優れた研究能力を備え、自ら設定した「問い」を探究し課題を解決できる能力を有した人材を養成する。

(選抜試験)

第5条 研究科に入学を志願する者については、選抜試験を行い、選考するものとする。

2 選抜試験及び選考方法に関し必要な事項は、別に定める。

(教育方法)

第6条 研究科の教育は、授業科目の履修及び学位論文の作成等に対する指導(以下「研究指導」という。)により行う。

(教育方法の特例)

第7条 教授会が教育上特別の必要があると認めたときは、夜間その他特定の時間又は時期において授業又は研究指導を行うことができる。

2 教育方法の特例に関し必要な事項は、別に定める。

(長期にわたる教育課程の履修)

第8条 大学院学則第31条の規定による長期にわたる教育課程の履修を希望する者がいるときは、教授会の議を経て、その履修を認めることができる。

2 長期にわたる教育課程の履修に関し必要な事項は、別に定める。

(授業科目、単位数及び履修方法)

第9条 授業科目及びその単位数は、別表第2のとおりとする。

2 前項に定める授業科目について、学際的基盤科目群から6単位以上、学位共通科目群から8単位以上、プログラム専門科目群から6単位以上及び課題研究から8単位を含む、合計30単位以上を修得しなければならない。

3 前項に定めるもののほか、履修方法に関し必要な事項は、別に定める。

(単位の計算方法)

第10条 研究科における授業科目の単位の計算方法については、次の基準によるものとする。

(1) 講義及び演習については、15時間から30時間までの範囲で行う授業をもって1単位とする。

(2) 実験、実習及び実技については、30時間から45時間までの範囲で行う授業をもって1単位とする。ただし、芸術等の分野における個人指導による実技の授業については、大学院学則第24条第2項において準用する新潟大学学則(平成16年学則第1号。以下「学則」という。)第49条に定める1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準であることを踏まえ、これらに必要な学修等を考慮した時間の授業をもって1単位とすることができる。

(一つの授業科目について二以上の方法の併用により行う場合の単位の計算基準)

第11条 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、大学院学則第24条第2項において準用する学則第49条に定める1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準であることを踏まえ、その組み合わせに応じた時間の授業をもって1単位とする。

(指導教員)

第12条 学生には、研究指導を担当する主指導教員及び副指導教員を定めるものとする。

2 主指導教員は、学生が履修する学位プログラムを担当する教授又は准教授とする。ただし、教授会が必要と認めるときは、研究科を担当する教授、准教授、講師、助教、客員教授、特任教授又は特任准教授をもって代えることができる。

3 副指導教員は2人とし、研究科を担当する教授、准教授、講師、助教、客員教授、客員准教授、特任教授又は特任准教授とする。

4 前2項の特任教授及び特任准教授は、独立行政法人大学改革支援・学位授与機構が行う大学・高専機能強化支援事業(高度情報専門人材の確保に向けた機能強化に係る支援)を受けて新潟大学が取り組む新潟大学における高度情報専門人材の育成事業によって雇用された常勤の特任教員に限る。

5 教育上有益と認められるときは、本研究科以外の研究科又は本学の研究所等の教員を副指導教員に加えることができる。

(研究指導委員会)

第13条 学生の研究及び履修に係る指導を行うため、研究指導委員会(以下「指導委員会」という。)を置く。

2 指導委員会は、学生ごとに主指導教員及び副指導教員をもって組織する。

(履修計画及び研究計画)

第14条 学生は、入学後1箇月以内に指導委員会の指導の下に、研究題目及び履修する授業科目を決定しなければならない。

2 学生は、原則として毎学年の始めにその年度に履修する授業科目を定め、所定の履修届を研究科長に提出しなければならない。

3 指導委員会は、指導学生と毎学年の始めに1年間の研究指導の計画に対する打合せ等を十分に行い、別に定める研究指導計画書により指導学生に研究指導計画を明示した上で、研究指導を行うものとする。

(単位の授与)

第 15 条 授業科目を履修した者に対して試験又は研究報告等を課し、それに合格した学生には、所定の単位を与える。

- 2 病気その他やむを得ない事由により、試験を受けることができない学生については、追試験を行うことができる。
- 3 授業科目の評価は、100 点満点をもって評価し、60 点以上の成績を得た学生を合格、59 点以下の成績を得た学生を不合格とする。
- 4 前項の成績の評語及び基準は、次のとおりとする。

点数	評語	基準
100 点～80 点	A	授業科目の目標に十分に達している。
79 点～70 点	B	授業科目の目標に照らして一定の水準に達している。
69 点～60 点	C	授業科目の目標の最低限を満たしている。
59 点～0 点	D	授業科目の目標の最低限を満たしていない。

(学位論文の提出)

第 16 条 学位論文は、指導委員会の指導を受けて、所定の期日までに、研究科長に提出しなければならない。

(学位論文の審査及び最終試験)

第 17 条 学位論文の審査及び最終試験については、新潟大学学位規則(平成 16 年規則第 30 号。以下「学位規則」という。)の定めるところによる。

(修了の要件)

第 18 条 修了の要件は、研究科に 2 年以上在学し、第 9 条第 2 項に定める単位を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、学位論文又は特定の課題についての研究成果の審査及び最終試験に合格することとする。ただし、在学期間に関しては、大学院学則第 32 条第 1 項ただし書きによる優れた業績を上げた者として教授会が認めた者については、研究科に 1 年以上在学すれば足りるものとする。

(修了の認定)

第 19 条 前条に規定する修了の認定は、教授会の議を経て、学長が行う。

(学位の授与)

第 20 条 前条の規定により修了と認定された者には、学位規則の定めるところにより修士の学位を授与する。

- 2 前項の修士の学位に付記する専攻分野の名称は、「学術」、「文学」、「法学」、「行政学」、「経済学」、「経営学」、「理学」、「工学」又は「農学」とする。

(教員の免許状)

第 21 条 研究科において取得することができる教員の免許状の種類及び免許教科は、別表第 3 のとおりとする。

(雑則)

第 22 条 この規程に定めるもののほか、必要な事項は、教授会が別に定める。

附 則

この規程は、令和 8 年 4 月 1 日から施行する。

別表第1(第3条関係)

専攻及び学位プログラム

修士課程

専攻	学位プログラム名称
人文社会科学専攻	人間文化科学プログラム
	現代社会科学プログラム
	アニメ・映像資源科学プログラム
	日本酒学プログラム
自然科学専攻	物質創成・基礎科学プログラム
	システム創成科学プログラム
	生命環境・食料科学プログラム
	情報社会デザイン科学プログラム
	カーボンニュートラル融合科学プログラム
	フィールド科学プログラム
	ひと脳・健康科学プログラム
	アニメ・映像資源科学プログラム
	日本酒学プログラム

備考 情報社会デザイン科学プログラムの募集人員は59人とする。

別表第2(第9条関係)

授業科目及び単位数

人文社会科学専攻

科目区分	授業科目	単 位	備 考
学際的基盤科目群	学際的科学総論 I A	1	
	学際的科学総論 I B	1	
	学際的科学総論 I C	1	
	学際的科学総論 I D	1	
	学際的科学総論 I E	1	
	学際的科学総論 II	1	
	ライフ・イノベーション研究入門	1	
	ライフ・イノベーション研究演習	1	
	ライフ・イノベーション PBL (M)	2	
	修士のためのキャリアマネジメントセミナー	2	
	修士のためのアカデミックライティング	2	
	海外英語研修	2	
	大型機器分析技術	2	
	データサイエンス概論	2	
	修士のためのインターンシップ	1	

学位共通科目群	人間文化科学プログラム		ワーク・ライフ・バランス	1	
			薬品安全管理技術	2	
		メディア文化分野科目群	映像文化Ⅰ	2	
			映像文化Ⅱ	2	
			表象文化	2	
			大衆文化	2	
			機能造形	2	
			日本画表現	2	
			西洋音楽文化	2	
			音楽表現論	2	
			声楽演奏論	2	
			音楽教育学	2	
		情報社会文化分野科目群	情報メディア論	2	
			理論社会学	2	
			ジェンダー論	2	
			保健医療社会学	2	
			文化人類学	2	
			科学技術と社会	2	
		思想科学分野科目群	宗教思想	2	
			哲学特論Ⅰ	2	
			哲学特論Ⅱ	2	
			哲学特論Ⅲ	2	
		基礎心理学分野科目群	認知科学特論	2	
			発達心理学特論	2	
			社会心理学特論	2	
			障害児心理学Ⅰ 特論(福祉分野に関する理論と支援の展開)	2	
			障害児心理学Ⅱ 特論	2	
			障害児言語学特論	2	
			パーソナリティ心理学特論	2	
			応用実験心理学特論	2	
臨床心理学分野科目群	臨床心理学特論Ⅰ	2			
	臨床心理学特論Ⅱ	2			
	心理療法特論Ⅰ	2			
	心理療法特論Ⅱ	2			
	精神医学特論(保健医療分野に関する理論と支援の展開)	2			
	投影法特論	2			

		人格心理学特論	2	
		犯罪心理学特論(司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開)	2	
		学校臨床心理学特論(教育分野に関する理論と支援の展開)	2	
		産業心理学特論(産業・労働分野に関する理論と支援の展開)	2	
		家族心理学特論(家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践)	2	
		メンタルヘルス教育特論(心の健康教育に関する理論と実践)	2	
	人間形成環境科学分野 科目群	コミュニティヘルス	2	
		ヘルスケア論	2	
		運動心理学	2	
		運動生理学	2	
		応用健康科学	2	
		健康運動論	2	
		衣環境評価学	2	
		衣環境材料学	2	
		生活経営学	2	
		教育哲学	2	
		教育社会学	2	
		現代リテラシー論Ⅰ	2	
		現代リテラシー論Ⅱ	2	
		教育工学	2	
		高等教育論	2	
		社会認識教育学	2	
	日本社会・言語文化分 野科目群	日本言語文化Ⅰ	2	
		日本言語文化Ⅱ	2	
		日本古代言語文化	2	
		日本古典文芸文化各論	2	
		日本古典文芸文化特論	2	
		日本文芸文化	2	
		日本書道文化	2	
		日本社会形成論Ⅰ	2	
		日本社会形成論Ⅱ	2	
		日本社会形成論Ⅲ	2	
		環日本海社会形成論	2	
		形態資料学	2	

		地域文化資源アーカイブ	2	
		日本民俗学	2	
		伝統芸能論	2	
		地理空間学特論	2	
		人文地理学特論	2	
		環境地理学特論	2	
	日本語教育分野科目群	日本語教育Ⅰ	2	
		日本語教育Ⅱ	2	
		日本語教育Ⅲ	2	
		日本語教育Ⅳ	2	
		日本語教育Ⅴ	2	
		日本語教育Ⅵ	2	
		日本語教育Ⅶ	2	
		日本語教育史	2	
	東アジア社会・言語文化分野科目群	中国言語文化Ⅰ	2	
		中国言語文化Ⅱ	2	
		中国古典文化	2	
		中国文芸文化Ⅰ	2	
		中国文芸文化Ⅱ	2	
		中国文芸文化Ⅲ	2	
		中国書道文化	2	
		朝鮮文芸文化	2	
		東アジア歴史文化	2	
		朝鮮歴史文化	2	
		比較考古学	2	
		東アジア言語文化	2	
		環日本海歴史文化	2	
	欧米社会・言語文化分野科目群	英米言語文化論Ⅰ	2	
		英米言語文化論Ⅱ	2	
		英米言語文化論Ⅲ	2	
		英米言語文化論Ⅳ	2	
		英米文芸文化論Ⅰ	2	
		英米文芸文化論Ⅱ	2	
		英米文芸文化論Ⅲ	2	
		言語学	2	
		フランス言語文化	2	
		フランス思想史	2	
		英米歴史文化	2	

現代社会科学プログラム		ヨーロッパ歴史文化Ⅰ	2	
		ヨーロッパ歴史文化Ⅱ	2	
		環地中海歴史文化	2	
		西洋美術史	2	
	行政ネットワーク分野 科目群	憲法Ⅰ	2	
		行政法	2	
		法社会学Ⅰ	2	
		政治学	2	
		政治学Ⅱ	2	
		国際政治史	2	
		政治思想	2	
		行政学	2	
		国際法	2	
		租税法	2	
		情報法	2	
		社会保障法	2	
		現代中国政治	2	
		法制ネットワーク分野 科目群	民法Ⅰ	2
	民法Ⅱ		2	
	民法Ⅲ		2	
	刑法Ⅰ		2	
	刑事訴訟法Ⅰ		2	
	刑事訴訟法Ⅱ		2	
	労働法		2	
	商法Ⅰ		2	
	損害賠償法		2	
	金融取引法		2	
	憲法Ⅰ		2	
	国際社会分野科目群	Japanese Family Law and Society	2	
		International Law	2	
		Politics in Contemporary Japan	2	
		Political Economy	2	
Introduction to Japanese Law Ⅰ		2		
Introduction to Japanese Law Ⅱ		2		
Introduction to Japanese Politics and Diplomacy		2		
理論・計量経済分野科 目群	ミクロ経済学	2		
	組織の経済学	2		

			計量経済分析	2	
			環境経済学	2	
			労働経済学	2	
			ゲーム理論	2	
			マクロ経済学	2	
			国際マクロ経済学	2	
			経済統計学	2	
			応用ミクロ経済学	2	
		グローバル社会経済ネットワーク分野科目群	財政学	2	
			世界経済史	2	
			比較経済思想史	2	
			アメリカ経済	2	
			ロシア東欧経済	2	
			EU 経済	2	
			中国経済	2	
			開発途上国経済	2	
			政治経済学	2	
			ゲーム理論	2	
		マネジメント分野科目群	公共経済学	2	
			公共選択論	2	
			中小企業論	2	
			地方財政	2	
			経営戦略論	2	
			経営組織	2	
			組織行動論	2	
			医療経営	2	
			マーケティング論	2	
			行政学	2	
			行政法	2	
			組織の経済学	2	
			マクロ経済学	2	
		技術経営	2		
		アカウンティング分野科目群	財務会計	2	
			管理会計	2	
			国際会計	2	
			経営税務	2	
			租税法	2	
			映像文化 I	2	

アニメ・映像資源科学プログラム	映像資源文化分野科目群	映像文化Ⅱ	2	
		表象文化	2	
		大衆文化	2	
		情報メディア論	2	
		西洋美術史	2	
		日本社会形成論Ⅰ	2	
		日本社会形成論Ⅲ	2	
		環日本海社会形成論	2	
		形態資料学	2	
		地域文化資源アーカイブ	2	
		日本民俗学	2	
		文化人類学	2	
		伝統芸能論	2	
		地理空間学特論	2	
		人文地理学特論	2	
	映像資源科学分野科目群	画像処理特論	2	
		デバイス・センサ特論	2	
		有機エレクトロニクス特論	2	
		視覚情報処理特論	2	
		ソフトマテリアル特論	2	
		複合材料設計化学	2	
		機能性材料評価学特論	2	
		デザイン表現特論	2	
		計算知能特論	2	
		建築計画・設計学特論	2	
		風景計画特論	2	
		都市デザイン特論	2	
日本酒学プログラム	日本酒生命食料科学分野科目群	糖鎖生物学	2	
		バイオイノベーション特論	2	
		細胞生物学特論	2	
		植物生理学特論	2	
		植物分子遺伝学特論Ⅰ	2	
		植物分子生物学	2	
		植物環境応答学概論	2	
		植物細胞工学特論	2	
		微生物機能学	2	
		微生物分子遺伝学	2	
微生物天然物化学	2			

			動物栄養生理学	2	
			米利用科学論	2	
			食品評価学	2	
			食品生化学	2	
			食品分子機能学	2	
			食品工学概論	2	
			醸造学特論	2	
			食品・農業情報工学特論	2	
			食品品質管理学	2	
			環境土壌学	2	
			環境分子生態学	2	
			木質成分化学	2	
			食料流通論	2	
			植物病理学特論	2	
			植物エピジェネティクス概論	2	
			動物・植物相互関係論	2	
			動物量的遺伝学	2	
			動物機能形態論	2	
			動物生殖細胞利用論	2	
		日本酒経済経営分野科目群	日本酒と自治体政策	2	
			日本酒アントレプレナーシップ論	2	
			日本酒酒蔵の中小企業論	2	
			日本酒とブランディング	2	
			酒蔵組織の企業行動論	2	
			酒類行政論	2	
プログラム専門科目群	人間文化科学プログラム専門科目群		映像文化 I 演習	2	
			表象文化演習	2	
			大衆文化演習	2	
			アニメ文化解析演習	2	
			機能造形演習	2	
			日本画表現演習	2	
			西洋音楽文化演習	2	
			音楽表現論演習	2	
			声楽演奏論演習	2	
			音楽教育学演習	2	
			情報メディア論演習	2	
			理論社会学演習	2	
			ジェンダー論演習	2	

	保健医療社会学演習	2	
	文化人類学演習	2	
	科学技術と社会演習	2	
	宗教思想演習	2	
	哲学演習Ⅰ	2	
	哲学演習Ⅱ	2	
	哲学演習Ⅲ	2	
	発達心理学演習	2	
	社会心理学演習	2	
	障害児心理学Ⅰ演習	2	
	障害児心理学Ⅱ演習	2	
	障害児言語学演習	2	
	パーソナリティ心理学演習	2	
	応用実験心理学演習	2	
	臨床心理面接特論Ⅰ(心理支援に関する理論と実践)	2	
	臨床心理面接特論Ⅱ	2	
	臨床心理基礎実習Ⅰ	1	
	臨床心理基礎実習Ⅱ	1	
	臨床心理実習Ⅰ(心理実践実習)	1	
	臨床心理実習Ⅱ	1	
	臨床心理実習Ⅲ(心理実践実習)	1	
	臨床心理査定演習Ⅰ(心理的アセスメントに関する理論と実践)	2	
	臨床心理査定演習Ⅱ	2	
	コミュニティヘルス演習	2	
	ヘルスケア論演習	2	
	運動心理学演習	2	
	運動生理学演習	2	
	応用健康科学演習	2	
	健康運動論演習	2	
	衣環境評価学演習	2	
	衣環境材料学演習	2	
	生活経営学演習	2	
	教育哲学演習	2	
	教育社会学演習	2	
	現代リテラシー論Ⅰ演習	2	
	現代リテラシー論Ⅱ演習	2	

	教育工学演習	2	
	社会認識教育学演習	2	
	日本語文化Ⅰ演習	2	
	日本語文化Ⅱ演習	2	
	日本古代言語文化演習	2	
	日本古典文芸文化各論演習	2	
	日本古典文芸文化特論演習	2	
	日本文芸文化演習	2	
	日本書道文化演習	2	
	日本社会形成論Ⅰ演習	2	
	日本社会形成論Ⅱ演習	2	
	日本社会形成論Ⅲ演習	2	
	環日本海社会形成論演習	2	
	形態資料学演習	2	
	地域文化資源アーカイブ演習	2	
	日本民俗学演習	2	
	伝統芸能論演習	2	
	地理空間学演習	2	
	人文地理学演習	2	
	環境地理学演習	2	
	日本語教育実習	2	
	日本語教育実践研究	2	
	中国言語文化Ⅰ演習	2	
	中国言語文化Ⅱ演習	2	
	中国古典文化演習	2	
	中国文芸文化Ⅰ演習	2	
	中国文芸文化Ⅱ演習	2	
	中国文芸文化Ⅲ演習	2	
	中国書道文化演習	2	
	朝鮮文芸文化演習	2	
	東アジア歴史文化演習	2	
	朝鮮歴史文化演習	2	
	比較考古学演習	2	
	東アジア比較文化演習	2	
	環日本海歴史文化演習	2	
	英米言語文化論Ⅰ演習	2	
	英米言語文化論Ⅱ演習	2	
	英米言語文化論Ⅲ演習	2	

	英米言語文化論Ⅳ演習	2	
	英米文芸文化論Ⅰ演習	2	
	英米文芸文化論Ⅱ演習	2	
	英米文芸文化論Ⅲ演習	2	
	言語学演習	2	
	フランス言語文化演習	2	
	フランス思想史演習	2	
	英米歴史文化演習	2	
	ヨーロッパ歴史文化Ⅰ演習	2	
	ヨーロッパ歴史文化Ⅱ演習	2	
	環地中海歴史文化演習	2	
	西洋美術史演習	2	
現代社会科学プログラム専門科目群	憲法Ⅰ演習	2	
	行政法演習	2	
	法社会学Ⅰ演習	2	
	政治学演習	2	
	政治学Ⅱ演習	2	
	国際政治史演習	2	
	政治思想演習	2	
	行政学演習	2	
	国際法演習	2	
	租税法演習	2	
	情報法演習	2	
	社会保障法演習	2	
	現代中国政治演習	2	
	民法Ⅰ演習	2	
	民法Ⅱ演習	2	
	民法Ⅲ演習	2	
	刑法Ⅰ演習	2	
	刑事訴訟法Ⅰ演習	2	
	刑事訴訟法Ⅱ演習	2	
	労働法演習	2	
	商法Ⅰ演習	2	
	損害賠償法演習	2	
	金融取引法演習	2	
	ミクロ経済学演習	2	
	組織の経済学演習	2	
	計量経済分析演習	2	

	環境経済学演習	2	
	労働経済学演習	2	
	ゲーム理論演習	2	
	マクロ経済学演習	2	
	国際マクロ経済学演習	2	
	応用ミクロ経済学演習	2	
	財政学演習	2	
	世界経済史演習	2	
	比較経済思想史演習	2	
	アメリカ経済演習	2	
	ロシア東欧経済演習	2	
	EU 経済演習	2	
	中国経済演習	2	
	開発途上国経済演習	2	
	政治経済学演習	2	
	公共経済学演習	2	
	公共選択論演習	2	
	中小企業論演習	2	
	地方財政演習	2	
	経営戦略論演習	2	
	経営組織演習	2	
	組織行動論演習	2	
	医療経営演習	2	
	マーケティング論演習	2	
	技術経営演習	2	
	財務会計演習	2	
	管理会計演習	2	
	国際会計演習	2	
	経営税務演習	2	
アニメ・映像資源科学プログラム 専門科目群	知的財産論	2	
	アニメ文化解析演習	2	
	デジタル映像資源演習	2	
	地域文化資源アーカイブ演習	2	
	映像資源科学演習Ⅰ	1	
	映像資源科学演習Ⅱ	1	
	映像資源科学演習Ⅲ	1	
	映像資源科学演習Ⅳ	1	
日本酒学プログラム専門科目群	日本酒学演習Ⅰ	1	

		日本酒学演習Ⅱ	1	
		日本酒学演習Ⅲ	1	
		日本酒学演習Ⅳ	1	
		研究発表演習(中間発表)	1	
		研究発表演習(学外発表)	1	
		日本酒学概論Ⅰ(自然科学)	1	
		日本酒学概論Ⅱ(人文社会科学)	1	
		日本酒学概論Ⅲ(医歯学・保健学)	1	
		日本酒学概論Ⅳ(総合実践学)	1	
		基礎日本酒学実習	2	
		発展日本酒学実習	1	
		日本酒学セミナー	1	
課題研究		課題研究Ⅰ-A(メディア文化)	2	
		課題研究Ⅱ-A(メディア文化)	2	
		課題研究Ⅲ-A(メディア文化)	2	
		課題研究Ⅳ-A(メディア文化)	2	
		課題研究Ⅰ-A(情報社会文化)	2	
		課題研究Ⅱ-A(情報社会文化)	2	
		課題研究Ⅲ-A(情報社会文化)	2	
		課題研究Ⅳ-A(情報社会文化)	2	
		課題研究Ⅰ-A(思想科学)	2	
		課題研究Ⅱ-A(思想科学)	2	
		課題研究Ⅲ-A(思想科学)	2	
		課題研究Ⅳ-A(思想科学)	2	
		課題研究Ⅰ-A(基礎心理学)	2	
		課題研究Ⅱ-A(基礎心理学)	2	
		課題研究Ⅲ-A(基礎心理学)	2	
		課題研究Ⅳ-A(基礎心理学)	2	
		課題研究Ⅰ-A(臨床心理学)	2	
		課題研究Ⅱ-A(臨床心理学)	2	
		課題研究Ⅲ-A(臨床心理学)	2	
		課題研究Ⅳ-A(臨床心理学)	2	
		課題研究Ⅰ-A(人間形成環境科学)	2	
		課題研究Ⅱ-A(人間形成環境科学)	2	
		課題研究Ⅲ-A(人間形成環境科学)	2	
		課題研究Ⅳ-A(人間形成環境科学)	2	
		課題研究Ⅰ-A(日本社会・言語文化)	2	
		課題研究Ⅱ-A(日本社会文化)	2	

	課題研究Ⅲ-A(日本社会文化)	2	
	課題研究Ⅳ-A(日本社会文化)	2	
	課題研究Ⅱ-A(日本言語文化)	2	
	課題研究Ⅲ-A(日本言語文化)	2	
	課題研究Ⅳ-A(日本言語文化)	2	
	課題研究Ⅰ-A(日本語教育)	2	
	課題研究Ⅱ-A(日本語教育)	2	
	課題研究Ⅲ-A(日本語教育)	2	
	課題研究Ⅳ-A(日本語教育)	2	
	課題研究Ⅰ-A(東アジア社会・言語文化)	2	
	課題研究Ⅱ-A(東アジア社会文化)	2	
	課題研究Ⅲ-A(東アジア社会文化)	2	
	課題研究Ⅳ-A(東アジア社会文化)	2	
	課題研究Ⅱ-A(東アジア言語文化)	2	
	課題研究Ⅲ-A(東アジア言語文化)	2	
	課題研究Ⅳ-A(東アジア言語文化)	2	
	課題研究Ⅰ-A(欧米社会・言語文化)	2	
	課題研究Ⅱ-A(欧米社会文化)	2	
	課題研究Ⅲ-A(欧米社会文化)	2	
	課題研究Ⅳ-A(欧米社会文化)	2	
	課題研究Ⅱ-A(英米言語文化)	2	
	課題研究Ⅲ-A(英米言語文化)	2	
	課題研究Ⅳ-A(英米言語文化)	2	
	課題研究Ⅱ-A(ヨーロッパ言語文化)	2	
	課題研究Ⅲ-A(ヨーロッパ言語文化)	2	
	課題研究Ⅳ-A(ヨーロッパ言語文化)	2	
	課題研究Ⅰ-B(行政ネットワーク)	2	
	課題研究Ⅱ-B(行政ネットワーク)	2	
	課題研究Ⅲ-B(行政ネットワーク)	2	
	課題研究Ⅳ-B(行政ネットワーク)	2	
	課題研究Ⅰ-B(法制ネットワーク)	2	
	課題研究Ⅱ-B(法制ネットワーク)	2	
	課題研究Ⅲ-B(法制ネットワーク)	2	
	課題研究Ⅳ-B(法制ネットワーク)	2	
	課題研究Ⅰ-B(国際社会)	2	
	課題研究Ⅱ-B(国際社会)	2	
	課題研究Ⅲ-B(国際社会)	2	
	課題研究Ⅳ-B(国際社会)	2	

	課題研究 I -B(理論・計量経済)	2	
	課題研究 II -B(理論・計量経済)	2	
	課題研究 III -B(理論・計量経済)	2	
	課題研究 IV -B(理論・計量経済)	2	
	課題研究 I -B(グローバル社会経済ネットワーク)	2	
	課題研究 II -B(グローバル社会経済ネットワーク)	2	
	課題研究 III -B(グローバル社会経済ネットワーク)	2	
	課題研究 IV -B(グローバル社会経済ネットワーク)	2	
	課題研究 I -B(マネジメント)	2	
	課題研究 II -B(マネジメント)	2	
	課題研究 III -B(マネジメント)	2	
	課題研究 IV -B(マネジメント)	2	
	課題研究 I -B(アカウンティング)	2	
	課題研究 II -B(アカウンティング)	2	
	課題研究 III -B(アカウンティング)	2	
	課題研究 IV -B(アカウンティング)	2	
	課題研究 I -F(映像資源文化)	2	
	課題研究 II -F(映像資源文化)	2	
	課題研究 III -F(映像資源文化)	2	
	課題研究 IV -F(映像資源文化)	2	
	課題研究 I -G(日本酒学・経済学)	2	
	課題研究 II -G(日本酒学・経済学)	2	
	課題研究 III -G(日本酒学・経済学)	2	
	課題研究 IV -G(日本酒学・経済学)	2	

自然科学専攻

科目区分	授業科目	単位	備考
学際的基盤科目群	学際的科學総論 I A	1	
	学際的科學総論 I B	1	
	学際的科學総論 I C	1	
	学際的科學総論 I D	1	
	学際的科學総論 I E	1	
	学際的科學総論 II	1	
	ライフ・イノベーション研究入門	1	
	ライフ・イノベーション研究演習	1	

		ライフ・イノベーション PBL (M)	2	
		修士のためのキャリアマネジメントセミナー	2	
		修士のためのアカデミックライティング	2	
		海外英語研修	2	
		大型機器分析技術	2	
		データサイエンス概論	2	
		修士のためのインターンシップ	1	
		ワーク・ライフ・バランス	1	
		薬品安全管理技術	2	
学位共通科目群	物質創成・基礎科学プログラム	物質宇宙基礎科学分野 科目群	実験素粒子物理学 I	2
			実験素粒子物理学 II	2
			理論素粒子物理学 I	2
			理論素粒子物理学 II	2
			理論素粒子物理学 III	2
			宇宙素粒子物理学概論	2
			原子核実験特論	2
			原子核理論特論 I	2
			原子核理論特論 II	2
			宇宙物理学特論 I	2
			宇宙物理学特論 II	2
			宇宙物理学特論 III	2
			固体物性物理学 I	2
			固体物性物理学 II	2
			固体物性物理学 III	2
			固体物性物理学 IV	2
			物性理論特論 I	2
			物性理論特論 II	2
			物性理論特論 III	2
			原子分子物理学	2
			原子核量子多体論概論	2
			不安定核物理学概論	2
			実験核物理学概論	2
			医学物理学総論	2
			放射線物理学特論	2
			放射線計測学特論	2
放射線防護学特論	2			
放射線関連法規	2			

			原子力規制学総論	1	
			原子力規制キャリア教育	1	
			放射線計測実習	1	
			原子力エネルギー特論	2	
		数理科学分野科目群	代数構造特論	2	
			整数論	2	
			代数的整数論	2	
			代数多様体論	2	
			位相幾何学特論	2	
			微分位相幾何学特論	2	
			微分幾何学特論	2	
			複素解析特論	2	
			関数解析特論	2	
			偏微分方程式論	2	
			関数空間特論	2	
			応用統計学概論	2	
			最適化概論	2	
			ベイズ統計学概論	2	
		基礎化学分野科目群	溶液化学特論	2	
			核化学特論	2	
			有機合成方法論 I	2	
			有機合成方法論 II	2	
			構造有機化学特論	2	
			分子生理化学	2	
			凝縮相物性論	2	
			反応化学概論	2	
			化学反応計測学	2	
			量子反応速度論	2	
			電気化学要論	2	
		物質材料科学分野科目群	固体電子材料論	2	
			金属材料物性論	2	
			電子移動反応論	2	
			表面光化学	2	
			応用無機材料化学	2	
			複合材料設計化学	2	
			生物機能工学	2	
			機能性材料評価学特論	2	
			生物機能材料科学	2	

			ソフトマテリアル特論	2	
			エネルギー変換材料論	2	
		素材創成化学分野科目群	表面計測化学	2	
			機能性高分子材料化学	2	
			エネルギー化学特論	2	
			精密高分子合成化学	2	
			無機物性化学	2	
			環境計測化学	2	
			無機材料物性化学	2	
			エネルギー材料解析化学	2	
			エネルギー転換プロセス特論	2	
			精密反応設計化学	2	
			粉体工学特論	2	
			乳化分散系化学特論	2	
			拡散操作特論	2	
	システム創成科学プログラム		先進機械システム分野科目群	エネルギー変換論	2
		先端機器・機械論		2	
		光エネルギー工学		2	
		連続体力学特論		2	
		機械情報可視化論		2	
		振動解析・制御特論		2	
		機械音響工学論		2	
		マイクロロボティクス論		2	
		生産加工学特論		2	
		宇宙探査ロボティクス特論		2	
		マイクロマシン工学特論		2	
		機械材料学特論		2	
		機能性表面特論		2	
		電子情報通信システム分野科目群		デジタル無線伝送工学	2
			デバイス・センサ特論	2	
			有機エレクトロニクス特論	2	
			応用超伝導工学	2	
			電子光デバイス特論	2	
			画像処理特論	2	
			光エレクトロニクス特論	2	
			電子機器特論	2	
		電子情報通信特論	2		
			電子材料分析評価法特論	2	

			薄膜工学特論	2	
			電子・光機能性材料特論	2	
			高電圧大電流工学特論	2	
			光コヒーレンス工学	2	
			プラズマ物性特論	2	
			風車工学	2	
			漁業共生・ステークホルダマネジメント	2	
			発電所運用・メンテナンス	1	
			エネルギー政策・制度	1	
			浮体式洋上風力発電特論	2	
		人間情報システム分野 科目群	生体情報工学特論	2	
			神経生理工学特論	2	
			支援システム特論	2	
			コミュニケーション支援特論	2	
			デザイン表現特論	2	
			演奏表現特論	2	
			音声聴覚情報処理特論	2	
			分子生体機能工学特論	2	
			立体造形特論	2	
			運動生理学特論	2	
			視覚情報処理特論	2	
			液体物理学特論	2	
			生体信号計測特論	2	
			保健理工学概論	2	
			人間情報学特別講義(心理)	2	
			人間情報学特別講義(感性)	2	
	生命環境・食料科学プログラム	基礎生命科学分野科目群	免疫細胞生物学	2	
			遺伝子工学概論	2	
			糖鎖生物学	2	
			構造生物学特論	2	
			分子細胞生理学特論	2	
			バイオイノベーション特論	2	
			細胞生物学特論	2	
			植物生理学特論	2	
			神経内分泌学	2	
			植物分子遺伝学特論 I	2	
			動物ゲノム多様性概論	2	

			比較認知生態学	2	
			先端臨海実習	2	
			海洋自然史学特論 I	2	
			生物形態機能論	2	
			共生生物学特論	2	
			動物進化発生学特論 I	2	
	応用生命・食品科学分野科目群		食品加工技術論	1	
			食の安全・安心論	1	
			植物生化学	2	
			栄養機能学概論	2	
			植物分子生物学	2	
			植物環境応答学概論	2	
			植物細胞工学特論	2	
			微生物機能学	2	
			微生物分子遺伝学	2	
			微生物天然物化学	2	
			動物栄養生理学	2	
			米利用科学論	2	
			食品評価学	2	
			食品生化学	2	
			食品分子機能学	2	
			食品工学概論	2	
			醸造学特論	2	
			食品・農業情報工学特論	2	
			食品品質管理学	2	
		生物資源科学分野科目群		食料流通論	2
			植物細胞工学特論	2	
			植物病理学特論	2	
			植物病原学特論	2	
			植物エピジェネティクス概論	2	
			農作物学特論	2	
			作物生理学特論	2	
			動物・植物相互関係論	2	
			動物量的遺伝学	2	
			動物機能形態論	2	

			動物生殖細胞利用論	2	
		流域環境学分野科目群	野生植物生態学特論	2	
			森林遺伝育種学特論	2	
			島嶼生態学特論	2	
			森林保全工学特論	2	
			森林空間計測学特論	2	
			農村計画学特論	2	
			農地工学特論	2	
			基盤施設工学特論	2	
			生産機械利用学特論	2	
			食品・農業情報工学特論	2	
			生物機械工学特論	2	
			精密農業概論	2	
			水文学特論	2	
			農業水利調整論	2	
			流域環境思想論	2	
			陸域環境動態特論	2	
			昆虫生態学特論	2	
			大気影響評価学特論	2	
			大気環境科学特論	2	
			生物センシング工学特論	2	
		都市・環境デザイン分野科目群	計算力学特論	2	
			コンクリート工学特論	2	
			維持管理工学特論	2	
			海岸環境工学特論	2	
			環境地盤学特論	2	
			建築構造設計特論	2	
			建築構造設計演習	2	
			建築振動学特論	2	
			建築計画・設計学特論	2	
			住居建築計画特論	2	
			建築環境工学特論	2	
			建築環境計画特論	2	
			建築環境計画演習	2	
			建築設備設計特論	2	
			建築設備設計演習	2	
			建築環境解析学演習	2	
			風景計画特論	2	

			都市デザイン特論	2	
			景観まちづくり演習	2	
		地質学分野科目群	岩石学Ⅰ	2	
			岩石学Ⅱ	2	
			鉱物学	2	
			構造岩石学	2	
			地質調査法特論	2	
			マントル・地殻ダイナミクス	2	
			ダイナミック層序学	2	
			地球表層の物質循環と資源	2	
			進化形態学	2	
			古環境解析特論	2	
			自然災害科学分野科目群	気象災害特論	2
		水災害特論		2	
		雪氷環境特論		2	
		第四紀・地盤災害特論		2	
		応用地形学特論		2	
		災害地球化学特論		2	
		火山災害特論		2	
アニメ・映像資源科学プログラム	映像資源文化分野科目群	映像文化Ⅰ	2		
		映像文化Ⅱ	2		
		表象文化	2		
		大衆文化	2		
		情報メディア論	2		
		西洋美術史	2		
		日本社会形成論Ⅰ	2		
		日本社会形成論Ⅲ	2		
		環日本海社会形成論	2		
		形態資料学	2		
		地域文化資源アーカイブ	2		
		日本民俗学	2		
		文化人類学	2		
		伝統芸能論	2		
		地理空間学特論	2		
		人文地理学特論	2		
		映像資源科学分野科目群	画像処理特論	2	
	デバイス・センサ特論		2		
	有機エレクトロニクス特論		2		

		視覚情報処理特論	2	
		ソフトマテリアル特論	2	
		複合材料設計化学	2	
		機能性材料評価学特論	2	
		デザイン表現特論	2	
		計算知能特論	2	
		建築計画・設計学特論	2	
		風景計画特論	2	
		都市デザイン特論	2	
日本酒学プログラム	日本酒生命食料科学分野科目群	糖鎖生物学	2	
		バイオイノベーション特論	2	
		細胞生物学特論	2	
		植物生理学特論	2	
		植物分子遺伝学特論 I	2	
		植物分子生物学	2	
		植物環境応答学概論	2	
		植物細胞工学特論	2	
		微生物機能学	2	
		微生物分子遺伝学	2	
		微生物天然物化学	2	
		動物栄養生理学	2	
		米利用科学論	2	
		食品評価学	2	
		食品生化学	2	
		食品分子機能学	2	
		食品工学概論	2	
		醸造学特論	2	
		食品・農業情報工学特論	2	
		食品品質管理学	2	
		環境土壌学	2	
		環境分子生態学	2	
		木質成分化学	2	
		食料流通論	2	
		植物病理学特論	2	
		植物エピジェネティクス概論	2	
		動物・植物相互関係論	2	
		動物量的遺伝学	2	
		動物機能形態論	2	

			動物生殖細胞利用論	2		
	日本酒経済経営分野科目群		日本酒と自治体政策	2		
			日本酒アントレプレナーシップ論	2		
			日本酒酒蔵の中小企業論	2		
			日本酒とブランディング	2		
			酒蔵組織の企業行動論	2		
			酒類行政論	2		
情報社会デザイン科学プログラム		情報工学分野科目群		ネットワーク・セキュリティ特論	2	
			移動体ネットワーク特論	2		
			電磁波工学特論	2		
			計算論：計算可能性の理論	2		
			プログラミング方法論	2		
			電磁環境計測特論	2		
			リモートセンシング概論	2		
			情報セキュリティ特論	2		
		データサイエンス分野科目群		データマネジメント工学	2	
				人工知能特論	2	
				ゲノム情報解析概論	2	
				計算知能特論	2	
				応用解析学特論	2	
				応用代数学特論	2	
				情報数理特論	2	
				数理最適化概論	2	
				数値計算特論	2	
				システム工学特論	2	
				応用微分方程式特論	2	
				行列解析	2	
		社会システム工学分野科目群		プロジェクトマネジメント特論	2	
				リスクマネジメント特論	2	
				生産マネジメント特論	2	
				プロジェクトマネジメント演習	2	
				デザイン思考特論	2	
		経営学分野科目群		技術経営戦略特論	2	
				会計管理特論	2	
				ブランディング特論	2	
				産業技術政策特論	2	

			ビジネス実務概論	2		
カーボンニュートラル 融合科学プログラム	電気エネルギー総合理 工学分野科目群		高電圧大電流工学特論	2		
			応用超伝導工学	2		
			有機エレクトロニクス特論	2		
			デバイス・センサ特論	2		
			電子光デバイス特論	2		
			電子・光機能性材料特論	2		
			電子材料分析評価法特論	2		
			機械情報可視化論	2		
			固体物性物理学Ⅰ	2		
			固体物性物理学Ⅱ	2		
			化学反応計測学	2		
			風車工学	2		
			漁業共生・ステークホルダマネ ジメント	2		
			発電所運用・メンテナンス	1		
			エネルギー政策・制度	1		
		浮体式洋上風力発電特論	2			
		熱・化学エネルギー総 合理工学分野科目群		エネルギー関連国際学会コミュ ニケーション法	2	
				エネルギー化学特論	2	
				水素エネルギー製造・輸送論	2	
				再生可能エネルギー概論	2	
				エネルギー変換論	2	
				光エネルギー工学	2	
				電子移動反応論	2	
				エネルギー変換材料論	2	
				エネルギー材料解析化学	2	
				溶液化学特論	2	
				地球表層の物質循環と資源	2	
			水素制御管理特論	2		
		エネルギー転換プロセス特論	2			
フィールド科学プログ ラム	地球惑星科学分野科目 群		森林保全工学特論	2		
			地圏環境論Ⅰ	2		
			フィールド惑星科学特論	2		
			環境化学要論Ⅱ	2		
			大気物理学特論Ⅰ	2		
			環境化学要論Ⅰ	2		

			第四紀・地盤災害特論	2	
			気象災害特論	2	
			水災害特論	2	
			災害地球化学特論	2	
			水文学特論	2	
			地球表層の物質循環と資源	2	
			進化形態学	2	
			応用地形学特論	2	
			火山噴火史調査法	2	
			気候物理学特論	2	
			大気影響評価学特論	2	
			大気環境科学特論	2	
		自然共生科学分野科目群	希少生物学特論	2	
			流域環境思想論	2	
			野生植物生態学特論	2	
			島嶼生態学特論	2	
			進化生物学特論IV	2	
			神経内分泌学	2	
			先端臨海実習	2	
			進化生物学特論II	2	
			SDGs 入門演習	2	
			森林遺伝育種学特論	2	
			都市デザイン特論	2	
			農業水利調整論	2	
			森林空間計測学特論	2	
			生態学特論	2	
			進化生物学特論I	2	
			生物形態機能論	2	
			人文地理学特論	2	
			地理空間学特論	2	
			自然再生学特論	2	
			海洋自然史学特論I	2	
			動物生態学特論	2	
	ひと脳・健康科学プログラム	ひと脳・健康科学I分野科目群	神経科学概論	2	
			ニューロテック特論	2	
			免疫細胞生物学	2	
			遺伝子工学概論	2	
			構造生物学特論	2	

		ひと脳・健康科学Ⅱ分野科目群	分子細胞生理学特論	2	
			バイオイノベーション特論	2	
			神経内分泌学	2	
			先端脳病態学	2	
			老化と不老不死	2	
			進化生物学特論Ⅰ	2	
			進化生物学特論Ⅱ	2	
			進化生物学特論Ⅳ	2	
			生物形態機能論	2	
			進化形態学	2	
プログラム 専門科目群	物質創成・基礎科学プログラム専門科目群	物質創成・基礎科学演習Ⅰ-C (物質宇宙基礎科学)	1		
		物質創成・基礎科学演習Ⅱ-C (物質宇宙基礎科学)	1		
		物質創成・基礎科学演習Ⅲ-C (物質宇宙基礎科学)	1		
		物質創成・基礎科学演習Ⅳ-C (物質宇宙基礎科学)	1		
		物質創成・基礎科学演習Ⅰ-C (数理科学)	1		
		物質創成・基礎科学演習Ⅱ-C (数理科学)	1		
		物質創成・基礎科学演習Ⅲ-C (数理科学)	1		
		物質創成・基礎科学演習Ⅳ-C (数理科学)	1		
		物質創成・基礎科学演習Ⅰ-C (基礎化学)	1		
		物質創成・基礎科学演習Ⅱ-C (基礎化学)	1		
		物質創成・基礎科学演習Ⅲ-C (基礎化学)	1		
		物質創成・基礎科学演習Ⅳ-C (基礎化学)	1		
		物質創成・基礎科学演習Ⅰ-C (物質材料科学)	1		
		物質創成・基礎科学演習Ⅱ-C (物質材料科学)	1		
物質創成・基礎科学演習Ⅲ-C (物質材料科学)	1				

	物質創成・基礎科学演習Ⅳ-C (物質材料科学)	1	
	物質創成・基礎科学演習Ⅰ-C (素材創成化学)	1	
	物質創成・基礎科学演習Ⅱ-C (素材創成化学)	1	
	物質創成・基礎科学演習Ⅲ-C (素材創成化学)	1	
	物質創成・基礎科学演習Ⅳ-C (素材創成化学)	1	
	研究発表演習(中間発表)	1	
	研究発表演習(学外発表)	1	
	先端科学技術総論(物質宇宙基礎科学)Ⅰ	1	
	先端科学技術総論(物質宇宙基礎科学)Ⅱ	1	
	Physics Today Ⅰ	1	
	Physics Today Ⅱ	1	
	物質科学の最前線	1	
	代数学の最前線	1	
	幾何学の最前線	1	
	解析学の最前線	1	
	応用数学の最前線	1	
	Mathematical Sciences Today	1	
	先端科学技術総論(化学)Ⅰ	1	
	先端科学技術総論(化学)Ⅱ	1	
	Chemistry Today Ⅰ	1	
	Chemistry Today Ⅱ	1	
	物質材料科学文献詳読Ⅰ	1	
	物質材料科学文献詳読Ⅱ	1	
	先端科学技術総論(物質材料科学)Ⅰ	1	
	先端科学技術総論(物質材料科学)Ⅱ	1	
システム創成科学プログラム専門科目群	システム創成科学演習Ⅰ-D(先進機械システム)	1	
	システム創成科学演習Ⅱ-D(先進機械システム)	1	
	システム創成科学演習Ⅲ-D(先進機械システム)	1	

		システム創成科学演習Ⅳ-D(先進機械システム)	1	
		システム創成科学演習Ⅰ-D(電子情報通信システム)	1	
		システム創成科学演習Ⅱ-D(電子情報通信システム)	1	
		システム創成科学演習Ⅲ-D(電子情報通信システム)	1	
		システム創成科学演習Ⅳ-D(電子情報通信システム)	1	
		システム創成科学演習Ⅰ-D(人間情報システム)	1	
		システム創成科学演習Ⅱ-D(人間情報システム)	1	
		システム創成科学演習Ⅲ-D(人間情報システム)	1	
		システム創成科学演習Ⅳ-D(人間情報システム)	1	
		研究発表演習(中間発表)	1	
		研究発表演習(学外発表)	1	
		技術英語・プレゼンテーション	2	
		アドバンステクノロジー	2	
		スマートグリッド特論	2	
	生命環境・食料科学プログラム専門科目群	生命環境・食料科学演習Ⅰ-E(基礎生命科学)	1	
		生命環境・食料科学演習Ⅱ-E(基礎生命科学)	1	
		生命環境・食料科学演習Ⅲ-E(基礎生命科学)	1	
		生命環境・食料科学演習Ⅳ-E(基礎生命科学)	1	
		生命環境・食料科学演習Ⅰ-E(応用生命・食品科学)	1	
		生命環境・食料科学演習Ⅱ-E(応用生命・食品科学)	1	
		生命環境・食料科学演習Ⅲ-E(応用生命・食品科学)	1	
		生命環境・食料科学演習Ⅳ-E(応用生命・食品科学)	1	

		生命環境・食料科学演習Ⅰ-E (生物資源科学)	1	
		生命環境・食料科学演習Ⅱ-E (生物資源科学)	1	
		生命環境・食料科学演習Ⅲ-E (生物資源科学)	1	
		生命環境・食料科学演習Ⅳ-E (生物資源科学)	1	
		生命環境・食料科学演習Ⅰ-E (流域環境学)	1	
		生命環境・食料科学演習Ⅱ-E (流域環境学)	1	
		生命環境・食料科学演習Ⅲ-E (流域環境学)	1	
		生命環境・食料科学演習Ⅳ-E (流域環境学)	1	
		生命環境・食料科学演習Ⅰ-E (都市・環境デザイン)	1	
		生命環境・食料科学演習Ⅱ-E (都市・環境デザイン)	1	
		生命環境・食料科学演習Ⅲ-E (都市・環境デザイン)	1	
		生命環境・食料科学演習Ⅳ-E (都市・環境デザイン)	1	
		生命環境・食料科学演習Ⅰ-E (地質学)	1	
		生命環境・食料科学演習Ⅱ-E (地質学)	1	
		生命環境・食料科学演習Ⅲ-E (地質学)	1	
		生命環境・食料科学演習Ⅳ-E (地質学)	1	
		生命環境・食料科学演習Ⅰ-E (自然災害科学)	1	
		生命環境・食料科学演習Ⅱ-E (自然災害科学)	1	
		生命環境・食料科学演習Ⅲ-E (自然災害科学)	1	
		生命環境・食料科学演習Ⅳ-E (自然災害科学)	1	
		研究発表演習(中間発表)	1	

	研究発表演習(学外発表)	1	
	基礎生命科学セミナー	1	
	応用生命・食品科学セミナーⅠ	1	
	応用生命・食品科学セミナーⅡ	1	
	応用生命・食品科学セミナーⅢ	1	
	応用生命・食品科学セミナーⅣ	1	
	生物資源科学概論Ⅰ	1	
	生物資源科学概論Ⅱ	1	
	建築倫理	2	
	建築プロジェクトマネージメント	2	
	建築設計製図	4	
	インターンシップ	4	
	建築インターンシップA	2	
	建築インターンシップB	4	
	建築インターンシップC	4	
	建築設計実習	4	
	Earth Science todayⅠ	1	
	Earth Science todayⅡ	1	
	自然災害環境論	1	
	突発災害特論	1	
アニメ・映像資源科学プログラム専門科目群	知的財産論	2	
	アニメ文化解析演習	2	
	デジタル映像資源演習	2	
	地域文化資源アーカイブ演習	2	
	映像資源科学演習Ⅰ	1	
	映像資源科学演習Ⅱ	1	
	映像資源科学演習Ⅲ	1	
	映像資源科学演習Ⅳ	1	
日本酒学プログラム専門科目群	日本酒学演習Ⅰ	1	
	日本酒学演習Ⅱ	1	
	日本酒学演習Ⅲ	1	
	日本酒学演習Ⅳ	1	
	研究発表演習(中間発表)	1	
	研究発表演習(学外発表)	1	
	日本酒学概論Ⅰ(自然科学)	1	
	日本酒学概論Ⅱ(人文社会科学)	1	

	日本酒学概論Ⅲ(医歯学・保健学)	1	
	日本酒学概論Ⅳ(総合実践学)	1	
	基礎日本酒学実習	2	
	発展日本酒学実習	1	
	日本酒学セミナー	1	
情報社会デザイン科学プログラム専門科目群	研究発表演習(中間発表)	1	
	研究発表演習(学外発表)	1	
	価値創造プロジェクト	2	
	ソフトウェア工学概論	2	
	技術・社会システム工学総論	1	
	情報社会デザインプロジェクト	2	
	英語コミュニケーションA	2	
	英語コミュニケーションB	2	
	異分野理解	2	
	X-informatics 概論	2	
	情報社会工学概論	2	
カーボンニュートラル融合科学プログラム専門科目群	カーボンニュートラル融合科学演習Ⅰ-J	1	
	カーボンニュートラル融合科学演習Ⅱ-J	1	
	カーボンニュートラル融合科学演習Ⅲ-J	1	
	カーボンニュートラル融合科学演習Ⅳ-J	1	
	研究発表演習(中間発表)	1	
	研究発表演習(学外発表)	1	
	カーボンニュートラル科学概論	2	
	スマートグリッド特論	2	
フィールド科学プログラム専門科目群	フィールド科学演習Ⅰ(理)	1	
	フィールド科学演習Ⅱ(理)	1	
	フィールド科学演習Ⅲ(理)	1	
	フィールド科学演習Ⅳ(理)	1	
	フィールド科学演習Ⅰ(農)	1	
	フィールド科学演習Ⅱ(農)	1	
	フィールド科学演習Ⅲ(農)	1	
	フィールド科学演習Ⅳ(農)	1	
	研究発表演習(中間発表)	1	
	研究発表演習(学外発表)	1	

		フィールド科学特論	1	
		地球惑星科学特論	1	
		自然共生科学特論	1	
	ひと脳・健康科学プログラム専門科目群	ひと脳・健康科学実習	2	
		研究発表演習(内部)	1	
		研究発表演習(外部)	1	
		ひと脳・健康科学演習	2	
		先端ひと脳・健康科学セミナー1	1	
先端ひと脳・健康科学セミナー2	1			
課題研究	課題研究Ⅰ-C(物質宇宙基礎科学)	2		
	課題研究Ⅱ-C(物質宇宙基礎科学)	2		
	課題研究Ⅲ-C(物質宇宙基礎科学)	2		
	課題研究Ⅳ-C(物質宇宙基礎科学)	2		
	課題研究Ⅰ-C(数理科学)	2		
	課題研究Ⅱ-C(数理科学)	2		
	課題研究Ⅲ-C(数理科学)	2		
	課題研究Ⅳ-C(数理科学)	2		
	課題研究Ⅰ-C(基礎化学)	2		
	課題研究Ⅱ-C(基礎化学)	2		
	課題研究Ⅲ-C(基礎化学)	2		
	課題研究Ⅳ-C(基礎化学)	2		
	課題研究Ⅰ-C(物質材料科学)	2		
	課題研究Ⅱ-C(物質材料科学)	2		
	課題研究Ⅲ-C(物質材料科学)	2		
	課題研究Ⅳ-C(物質材料科学)	2		
	課題研究Ⅰ-C(素材創成化学)	2		
	課題研究Ⅱ-C(素材創成化学)	2		
	課題研究Ⅲ-C(素材創成化学)	2		
	課題研究Ⅳ-C(素材創成化学)	2		
	課題研究Ⅰ-D(先進機械システム)	2		
	課題研究Ⅱ-D(先進機械システム)	2		

	課題研究Ⅲ-D(先進機械システム)	2	
	課題研究Ⅳ-D(先進機械システム)	2	
	課題研究Ⅰ-D(電子情報通信システム)	2	
	課題研究Ⅱ-D(電子情報通信システム)	2	
	課題研究Ⅲ-D(電子情報通信システム)	2	
	課題研究Ⅳ-D(電子情報通信システム)	2	
	課題研究Ⅰ-D(人間情報システム)	2	
	課題研究Ⅱ-D(人間情報システム)	2	
	課題研究Ⅲ-D(人間情報システム)	2	
	課題研究Ⅳ-D(人間情報システム)	2	
	課題研究Ⅰ-E(基礎生命科学)	2	
	課題研究Ⅱ-E(基礎生命科学)	2	
	課題研究Ⅲ-E(基礎生命科学)	2	
	課題研究Ⅳ-E(基礎生命科学)	2	
	課題研究Ⅰ-E(応用生命・食品科学)	2	
	課題研究Ⅱ-E(応用生命・食品科学)	2	
	課題研究Ⅲ-E(応用生命・食品科学)	2	
	課題研究Ⅳ-E(応用生命・食品科学)	2	
	課題研究Ⅰ-E(生物資源科学)	2	
	課題研究Ⅱ-E(生物資源科学)	2	
	課題研究Ⅲ-E(生物資源科学)	2	
	課題研究Ⅳ-E(生物資源科学)	2	
	課題研究Ⅰ-E(流域環境学)	2	
	課題研究Ⅱ-E(流域環境学)	2	
	課題研究Ⅲ-E(流域環境学)	2	
	課題研究Ⅳ-E(流域環境学)	2	

	課題研究Ⅰ-E(都市・環境デザイン)	2	
	課題研究Ⅱ-E(都市・環境デザイン)	2	
	課題研究Ⅲ-E(都市・環境デザイン)	2	
	課題研究Ⅳ-E(都市・環境デザイン)	2	
	課題研究Ⅰ-E(地質学)	2	
	課題研究Ⅱ-E(地質学)	2	
	課題研究Ⅲ-E(地質学)	2	
	課題研究Ⅳ-E(地質学)	2	
	課題研究Ⅰ-E(自然災害科学)	2	
	課題研究Ⅱ-E(自然災害科学)	2	
	課題研究Ⅲ-E(自然災害科学)	2	
	課題研究Ⅳ-E(自然災害科学)	2	
	課題研究Ⅰ-F(映像資源科学)	2	
	課題研究Ⅱ-F(映像資源科学)	2	
	課題研究Ⅲ-F(映像資源科学)	2	
	課題研究Ⅳ-F(映像資源科学)	2	
	課題研究Ⅰ-G(日本酒学・農学)	2	
	課題研究Ⅱ-G(日本酒学・農学)	2	
	課題研究Ⅲ-G(日本酒学・農学)	2	
	課題研究Ⅳ-G(日本酒学・農学)	2	
	課題研究Ⅰ-H(情報社会デザイン科学)	2	
	課題研究Ⅱ-H(情報社会デザイン科学)	2	
	課題研究Ⅲ-H(情報社会デザイン科学)	2	
	課題研究Ⅳ-H(情報社会デザイン科学)	2	
	課題研究Ⅰ-J(カーボンニュートラル融合科学)	2	
	課題研究Ⅱ-J(カーボンニュートラル融合科学)	2	
	課題研究Ⅲ-J(カーボンニュートラル融合科学)	2	
	課題研究Ⅳ-J(カーボンニュートラル融合科学)	2	

		課題研究Ⅰ-K(フィールド科学・理)	2		
		課題研究Ⅱ-K(フィールド科学・理)	2		
		課題研究Ⅲ-K(フィールド科学・理)	2		
		課題研究Ⅳ-K(フィールド科学・理)	2		
		課題研究Ⅰ-K(フィールド科学・農)	2		
		課題研究Ⅱ-K(フィールド科学・農)	2		
		課題研究Ⅲ-K(フィールド科学・農)	2		
		課題研究Ⅳ-K(フィールド科学・農)	2		
		課題研究Ⅰ-L(ひと脳・健康科学)	2		
		課題研究Ⅱ-L(ひと脳・健康科学)	2		
		課題研究Ⅲ-L(ひと脳・健康科学)	2		
		課題研究Ⅳ-L(ひと脳・健康科学)	2		
特別履修コース科目群	農と食のスペシャリスト	実践型食づくりプロジェクト(日本酒)	2		
		実践型食づくりプロジェクト(ライス)	2		
		実践型食づくりプロジェクト(バイテク)	2		
		実践型食づくりプロジェクト(いもジェンヌ)	2		
		実践型食づくりプロジェクト(ミルク)	2		
		企画実践型インターンシップ	1		
		食づくり国際インターンシップ	1		
		英語論文作成・発表演習	1		
		先端的農業技術論	1		
		地域食品産業論	2		
		グローバル農力	グローバル農力(短期)	2	

	グローバル農力国際キャリア実習(中期)	1	
	グローバル農力国際特別研究(中期)	2	
	グローバル農力国際キャリア実習(長期)	2	
	グローバル農力国際特別研究(長期)	4	
グローバル・ドミトリー	先端的国際工学概論	1	
	先端的国際工学事情	1	
	先端的国際工学特論Ⅰ	2	
	先端的国際工学特論Ⅱ	2	
	先端的国際技術協力	1	
	実践的PBLファシリテーション工学演習	2	
	先端的国際テクノロジー・グループワーク・インターンシップS	2	
	先端的国際テクノロジー・グループワーク・インターンシップA	3	
	先端的国際テクノロジー・グループワーク・インターンシップB	4	
	先端的国際マーケット・グループワーク・インターンシップS	2	
	先端的国際マーケット・グループワーク・インターンシップA	3	
	先端的国際マーケット・グループワーク・インターンシップB	4	
	先端的国際リサーチ・インターンシップ	2	
	理工系グローバルドミトリー特別研究A	1	
	理工系グローバルドミトリー特別研究B	2	
理工系グローバルドミトリー特別研究C	4		
理工系グローバルドミトリー・セミナーA	1		

		理工系グローバルドミトリー・セミナーB	2	
		理工系グローバルドミトリー発表演習・発表	1	
		グローバルPBL	1	
	グローバルフィールド科学人材育成	地球環境科学特論	1	
		地球環境フィールド科学演習	2	
		海外フィールド体験実習	2	
		フィールド産業インターンシップ	1	
		海外フィールド科学実習 A	2	
		海外フィールド科学実習 B	4	

別表第3(第21条関係)

取得することができる教員の免許状の種類及び免許教科

専攻	教員の免許状の種類(免許教科)
人文社会科学専攻	中学校教諭専修免許状(国語)
	高等学校教諭専修免許状(国語)
	中学校教諭専修免許状(社会)
	高等学校教諭専修免許状(地理歴史)
	高等学校教諭専修免許状(公民)
	中学校教諭専修免許状(英語)
	高等学校教諭専修免許状(英語)
自然科学専攻	中学校教諭専修免許状(数学)
	高等学校教諭専修免許状(数学)
	中学校教諭専修免許状(理科)
	高等学校教諭専修免許状(理科)
	高等学校教諭専修免許状(工業)
	高等学校教諭専修免許状(農業)
	高等学校教諭専修免許状(情報)

Ⅱ 修学上の注意事項

II 修学上の注意事項

1 修了要件

修了の要件は、本研究科に2年以上在学し、以下に定める授業科目について30単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上で、当該課程の目的に応じ、修士論文又は特定の課題についての研究の成果の審査及び最終試験に合格することです。修了に必要な単位数は、下表に示すとおりです。

科目群	必修	選択必修	選択
学際的基盤科目群	4単位	2単位**	2単位以上
学位共通科目群*		8単位**	
プログラム専門科目群		6単位**	
特別履修コース科目群			
課題研究	8単位		
総修得単位数	30単位以上		

*学位共通科目群では、二つ以上のモジュールの修得を必須とします。一つのモジュールは、学位共通科目群のうち、所属する学位プログラムが指定する分野科目群において、同一の分野科目群の科目の中から修得した4単位をもって認定します。

**各科目群における修得した選択必修科目の余剰単位は、選択科目の修得単位とみなします。

教育課程の科目群について

科目群	単位数	概要
学際的基盤科目群	6単位以上	学際的知識と複数の研究方法論、及びトランスファラブルスキルを修得するための本研究科の共通科目です。必修科目4単位、選択必修科目から2単位を修得してください。
学位共通科目群	8単位以上	学位に付記する専攻分野に関連する専門知識・素養の獲得を目的とした学修の量・質を担保するために履修を求める科目です。所属する学位プログラムが指定する科目群から、2モジュール(8単位)を修得してください。
プログラム専門科目群	6単位以上	各学位プログラム独自の体系的な専門科目で、各学位プログラムが目指す専門性を修得するための科目です。所属する学位プログラムが指定する科目群から6単位を修得してください。
課題研究	8単位	専門性とトランスファラブルスキルを統合した学際的思考を修得するための科目です。所属する学位プログラムが指定する科目から8単位を修得してください。

※修了に必要な総単位数：30単位以上

各学位プログラムにおける取得学位に関する履修方法は別添「III 学位プログラム及び学位の名称」参照

2 修業年限

標準修業年限は2年です。なお、4年を超えて在学することはできません。

ただし、職業を有しながら在籍する社会人学生等は、長期履修制度を活用することにより、4年を限度に、標準修業年限を超えて、履修計画を立てて修了することができます。

3 授業科目の履修時期及び履修順序

先に1で記した本研究科の必修科目及びそれ以外の科目の履修順序について説明します。

必修科目「学際的基盤科目群」のうち「学際的科学総論Ⅰ」「学際的科学総論Ⅱ」は、原則として1年次第1学期に、「ライフ・イノベーション研究入門」「ライフ・イノベーション研究演習」は、同じく1年次第2学期に履修してください。選択必修科目の「修士のためのキャリアマネジメントセミナー」は、同じく1年次第1学期に、「ライフ・イノベーション PBL (M)」は1年次第2学期に履修してください。

なお10月入学の方については、1年次第2学期開講科目と第1学期開講科目の履修順序を入れ替えて履修してください。

必修科目「課題研究」は、属する学位プログラムが指定する科目から8単位を修得してください。そのうち、「課題研究Ⅰ」は1年次第1学期に、「課題研究Ⅱ」は1年次第2学期に、「課題研究Ⅲ」は2年次第1学期に、「課題研究Ⅳ」は2年次第2学期に履修してください。この4科目は、4月・10月の入学時期によらず開講時期・履修順序は同一です。

上記以外の科目については、一部科目を除いて履修時期及び履修順序の指定はありません。各自の研究の進捗に応じて、1年次又は2年次のいずれかで履修してください。

4 研究指導

本研究科における研究指導は、本研究科を担当する教員（以下「指導教員」）が行います。指導教員は、学生1人に対して主指導教員1人と副指導教員2人とします。

学生は、入学後に自身の学位プログラムの履修ガイダンスを受けたのち、入学から1週間以内に入学時に指導を希望した教員と協議し、主指導教員を決定してください。その上で学生と主指導教員は、協議の上、入学から2週間以内に副指導教員2名を決定してください。この主指導教員と副指導教員2名により、学位取得に向けた研究指導委員会が構成されます。

さらに学生と主指導教員は、協議の上、入学後1か月以内に研究課題・取得予定学位の専門分野・1年間の研究計画を決定し、所定の研究指導計画・実施報告書を作成して研究科に提出してください。以上について決定が困難な場合には、所属プログラム又は研究科が設置する相談窓口にご相談ください。

また学生と主指導教員は、協議の上、毎学年の始めに所定の研究指導計画・実施報告書を作成して研究科に提出してください。学位取得に向けた研究指導については、Ⅳ 学位を参照してください。

5 履修指導、履修手続き

本研究科における履修指導は、研究指導委員会が、学生の所属プログラムの協力のもと、取得予定学位の専門分野、学位取得のために必要となる授業科目等について行います。

学生は、主指導教員と協議の上、入学後1か月以内に、履修計画（履修する授業科目）を決定し、所定の履修届を研究科に提出してください。また、主指導教員と協議の上、毎学年の始めに履修する授業科目を決定し、所定の履修届を提出してください。

6 単位の認定

授業科目を履修した者に対して試験又は研究報告等を課し、それに合格した学生には、所定の単位を与えます。

病気その他やむを得ない事由により、試験を受けることができない学生については、追試験を行うことがあります。

授業科目の評価は、100点満点をもって評価し、60点以上の成績を得た学生を合格、59点以下の成績を得た学生を不合格とします。

成績の評語及び基準

点数	評語	基準
100点～80点	A	授業科目の目標に十分に達している。
79点～70点	B	授業科目の目標に照らして一定の水準に達している。
69点～60点	C	授業科目の目標の最低限を満たしている。
59点～0点	D	授業科目の目標の最低限を満たしていない。

7 成績評価にかかる疑義照会および不服申立て

成績評価に関して疑義や不服がある場合は、所定の手続きに従って照会等を行うことができます。詳細は、「新潟大学大学院総合学術研究科に係る授業科目の成績評価に対する不服申立て等に関する要項」を参照してください。

8 本学大学院の他研究科の授業科目の履修

教育上有益と認められるときは、本学大学院の他の研究科の授業科目を履修することができます。この場合、8単位を超えない範囲で、本研究科で修得したものとみなします。

9 他の大学院の授業科目の履修等

教育上有益と認められるときは、本研究科が協議をした他の大学院の授業科目を履修することができます。この場合、15単位を超えない範囲で、本研究科で修得したものとみなします。

10 他の大学院等における研究指導等

教育上有益と認められるときは、本研究科が協議をした他の大学院又は研究所等において、必要な研究指導を受けることができます。ただし、他の大学院等で受ける研究指導の期間は、1年を超えないものとします。

11 長期にわたる教育課程の履修

長期にわたる教育課程の履修を希望する者があるときは、教授会の議を経て、その履修を認めることができます。詳細は、「新潟大学大学院総合学術研究科における長期にわたる教育課程の履修に関する細則」を参照してください。

12 大学院設置基準第14条による教育方法の実施

教育上特別の必要があると認められる場合には、夜間その他特定の時間又は時期において授業又は研究指導を行う等の適当な方法により教育を行います。希望する場合には所定の手続きに従って申請してください。

Ⅲ 学位プログラム及び学位の名称

- 各学位プログラムにおける取得学位に関する履修方法
- 学位共通科目群と学位付記の専門分野

Ⅲ 学位プログラム及び学位の名称

人文社会科学専攻

<専門深化型学位プログラム>

ア 人間文化科学プログラム

人間文化学プログラムでは、人間の文化的、社会的営為に焦点を合わせ、哲学、史学、文学、心理学、メディア学、情報社会科学、生活健康行動科学などの人文科学に関わる学問分野の観点から研究を行い、また他の学問分野や実務との邂逅を通してその専門性を高めることにより、課題発見と探求能力及び倫理観を有する専門職業人又は研究教育者を育成する。学術的知見を修得できる授業科目は、学位共通科目群において「メディア文化」、「情報社会文化（文学）」、「思想科学（文学）」、「基礎心理学（文学）」、「臨床心理学（文学）」、「人間形成環境科学」、「日本社会・言語文化（文学）」、「日本語教育（文学）」、「東アジア社会・言語文化（文学）」、「欧米社会・言語文化（文学）」の10の分野科目群に分類して設定し、科目群をまたぐ柔軟な科目履修を可能にするとともに、分野を超えて新たな課題に展開する力となる「総合知」を涵養する。

授与する学位 修士（文学）、修士（学術）

イ 現代社会科学プログラム

現代社会科学プログラムでは、現代社会において生活する人々が共生し発展していくためのルールや仕組み、限られた資源の分配や個人と組織との関係などに焦点を合わせ、法学、政治学、行政学、経済学、経営学、公共経営学などの社会科学に関わる学問分野の観点から研究を行い、また他の専門分野や実務との邂逅を通してその専門性を高めることにより、課題発見と探究能力及び倫理観を有する専門職業人又は研究教育者を育成する。学術的知見を修得できる授業科目は、学位共通科目群において「行政ネットワーク（行政学）」、「法制ネットワーク（法学）」、「国際社会（法学）」、「理論・計量経済（経済学）」、「グローバル社会経済ネットワーク（経済学）」、「マネジメント（経営学）」、「アカウントティング（経営学）」の7つの分野科目群に分類して設定し、科目群をまたぐ柔軟な科目履修を可能にするとともに、分野を超えて新たな課題に展開する力となる「総合知」を涵養する。

授与する学位 修士（法学）、修士（行政学）、修士（経済学）、修士（経営学）、修士（学術）

<新潟学際型学位プログラム>

ウ アニメ・映像資源科学プログラム

アニメ・映像資源科学プログラムでは、新潟大学が有するアニメ中間素材・地域映像アーカイブを活用して、アニメや地域映像をはじめとするさまざまな映像資源について、その文化や社会とのかかわり、画像処理・保存・データベース化に関する技術・倫理・法・文化についての教育研究を行なう。学術的知見を修得できる授業科目は、学位共通科目群において「映像資源文化（文学）」、「映像資源科学（工学）」の二つの分野科目群に分類して設定し、科目群をまたぐ柔軟な科目履修を可能とするとともに、領域横断的な知識力と発想力をもった、イノベーション創出の力となる「総合知」を涵養する。

授与する学位 修士（学術）、修士（文学）

エ 日本酒学プログラム

日本酒学プログラムでは、日本酒という対象を共通の軸として、経済経営学・農学を専門領域に加え、日本酒の原料・生産から販売・消費まで、さらには文化や歴史・伝統、健康に至るまでの幅広い多様な異なる領域を俯瞰した内容で教育研究を行う。学術的知見を修得できる授業科目は、学位共通科目群において「日本酒経済経営（経営学）」、「日本酒生命食料科学（農学）」の二つの分野科目群に分類して設定し、科目群をまたぐ柔軟な科目履修を可能にするとともに、領域横断的な知識力と発想力をもった、イノベーション創出の力となる「総合知」を涵養する。

授与する学位 修士（学術）、修士（経営学）

自然科学専攻

<専門深化型学位プログラム>

ア 物質創成・基礎科学プログラム

物質創成・基礎科学プログラムでは、物質の起源や自然法則・原理、人工物質の物理的・化学的機能や反応機構の探究・解明を目指す基礎科学とともに、新物質や新素材の探究、社会及び産業への実装を目指した開発、さらに自然界や社会の諸現象の数理的研究まで含む広範な教育研究を行い、科学技術上の課題に自ら能動的に対処できる幅広い見識と独創性に富んだ人材育成を分野横断的に行なう。学術的知見を修得できる授業科目は、学位共通科目群において「物質宇宙基礎科学（理学）」、「数理科学（理学）」、「基礎化学（理学）」、「物質材料科学（工学）」、「素材創成化学（工学）」五つの分野科目群に分類して設定し、科目群をまたぐ柔軟な科目履修を可能にするとともに、分野を超えて新たな課題に展開する力となる「総合知」を涵養する。

授与する学位 修士（理学）、修士（工学）、修士（学術）

イ システム創成科学プログラム

システム創成科学プログラムでは、機械工学、電子情報通信工学、人間支援科学等の分野を専門とし、工学の立場から Society 5.0 の実現や持続可能な開発目標（SDGs）の達成に貢献する人材を育成するため、専門分野への理解の深化と他分野への理解を促す教育研究を行い、先進機械システム、電子情報通信システム、人間情報システムの分野における高度専門職業人、研究教育者を育成する。学術的知見を修得できる授業科目は、学位共通科目群において「先進機械システム（工学）」、「電子情報通信システム（工学）」、「人間情報システム（工学）」の三つの分野科目群に分類して設定し、科目群をまたぐ柔軟な科目履修を可能とするとともに、分野を超えて新たな課題に展開する力となる「総合知」を涵養する。

授与する学位 修士（工学）、修士（学術）

ウ 生命環境・食料科学プログラム

生命環境・食料科学プログラムでは、生命現象・自然環境及び食料に関する科学的課題及び社会への実装を目指した開発課題の分析・解決にあたり、専門分野を跨いで能動的に対処することができる人材を育成するため、自然界の諸現象や生命、生物、食糧生産、地球、環境、生態等の各専門分野の基礎学力を深化させる。学術的知見を修得できる授業科目は、学位共通科目群において「基礎生命科学（理学）」、「応用生命・食品科学（農学）」、「生物資源科学（農学）」、「流域環境学（農学）」、「都市・環境デザイン（工学）」、「地質学（理学）」、「自然災害科学（理学）」の7

つの分野科目群に分類して設定し、科目群をまたぐ柔軟な科目履修を可能にするとともに、分野を超えて新たな課題に展開する力となる「総合知」を涵養する。

授与する学位 修士（理学），修士（工学），修士（農学），修士（学術）

<新潟学際型学位プログラム>

エ アニメ・映像資源科学プログラム

アニメ・映像資源科学プログラムでは、新潟大学が有するアニメ中間素材・地域映像アーカイブを活用して、アニメや地域映像をはじめとするさまざまな映像資源について、その文化や社会とのかかわり、画像処理・保存・データベース化に関する技術・倫理・法・文化についての教育研究を行なう。学術的知見を修得できる授業科目は、学位共通科目群において「映像資源文化（文学）」、「映像資源科学（工学）」の二つの分野科目群に分類して設定し、科目群をまたぐ柔軟な科目履修を可能とするとともに、領域横断的な知識力と発想力をもった、イノベーション創出の力となる「総合知」を涵養する。

授与する学位 修士（学術），修士（工学）

オ 日本酒学プログラム

日本酒学プログラムでは、日本酒という対象を共通の軸として、経済経営学・農学を専門領域に加え、日本酒の原料・生産から販売・消費まで、さらには文化や歴史・伝統、健康に至るまでの幅広い多様な異なる領域を俯瞰した内容で教育研究を行う。学術的知見を修得できる授業科目は、学位共通科目群において「日本酒経済経営（経営学）」、「日本酒生命食料科学（農学）」の二つの分野科目群に分類して設定し、科目群をまたぐ柔軟な科目履修を可能にするとともに、領域横断的な知識力と発想力をもった、イノベーション創出の力となる「総合知」を涵養する。

授与する学位 修士（学術），修士（農学）

カ 情報社会デザイン科学プログラム

情報社会デザイン科学プログラムでは、高度な情報通信、データサイエンス、デジタル技術、デジタルトランスフォーメーションを学んだ上で、自ら課題分析・目標設定ができ、様々な観点で検討を加え、解決方法を見出せる人材を育成することを目指す。特に、データサイエンス、人工知能、アントレプレナーシップ、マネジメントなど情報科学・情報技術分野における知識、社会システム工学分野の知識を修得するための教育研究を行う。学術的知見を修得できる授業科目は、学位共通科目群において「情報工学（工学）」、「データサイエンス（工学）」、「社会システム工学（工学）」、「経営学（経営学）」の四つの分野科目群に分類して設定し、科目群をまたぐ柔軟な科目履修を可能にするとともに、領域横断的な知識力と課題解決力をもった、イノベーション創出力となる「総合知」を涵養する。

授与する学位 修士（学術），修士（工学）

キ カーボンニュートラル融合科学プログラム

カーボンニュートラル融合科学プログラムでは、全世界的な脱炭素社会の実現に向けて、熱エネルギー、化学エネルギー、電気エネルギーを中心に創エネルギー・省エネルギー・蓄エネルギーに関連する個別科学技術を広く理解した上で、スマートグリッドに代表されるエネルギーマネ

ジメントやエネルギー輸送等の融合的科学技術に関する教育研究により、エネルギー技術開発を通じた持続可能な社会の実現に資する人材を育成する。学術的知見を修得できる授業科目は、学位共通科目群において「電気エネルギー総合理工学」、「熱・化学エネルギー総合理工学」の二つの分野科目群に分類して設定し、科目群をまたぐ柔軟な科目履修を可能にするとともに、分野横断的な知識力と課題解決力をもった、イノベーション創出力となる「総合知」を涵養する。

授与する学位 修士（学術）、修士（工学）

ク フィールド科学プログラム

フィールド科学プログラムでは、海洋・気象学、地形・地質学、惑星科学、地球環境物理化学、生態・森林再生・保全学、人文地理学、自然災害科学にまたがる多彩なフィールド科学分野の教育研究を通して、地球惑星科学及び自然共生科学分野における専門的知識・技能及び課題解決力を養成し、多方面において社会に貢献できるフィールドサイエンティストを育成する。学術的知見を修得できる授業科目は、学位共通科目群において「地球惑星科学」、「自然共生科学」の二つの分野科目群に分類して設定し、科目群をまたぐ柔軟な科目履修を可能にするとともに、領域横断的な知識力とその統合及び課題解決力をもった、イノベーション創出力となる「総合知」を涵養する。

授与する学位 修士（学術）、修士（理学）、修士（農学）

ケ ひと脳・健康科学プログラム

ひと脳・健康科学プログラムでは、脳神経科学及び健康科学を基盤に、認知症の予防・治療や健康寿命の延伸、先端的なデジタルヘルス技術の活用等を通じた高齢化社会特有の社会課題の解決に貢献できる人材を育成する。学術的知見を修得できる授業科目は、学位共通科目群において「ひと脳・健康科学Ⅰ（理学）」、「ひと脳・健康科学Ⅱ（理学）」の二つの分野科目群に分類して設定し、科目群をまたぐ柔軟な科目履修を可能にするとともに、領域横断的な知識力とその統合及び課題解決力をもった、イノベーション創出力となる「総合知」を涵養する。

授与する学位 修士（学術）、修士（理学）

○ 各学位プログラムにおける取得学位に関する履修方法

ア 学際的基盤科目（必修科目）の履修方法

科目名	必修・選択の別	専攻	プログラム	履修方法
学際的学術総論 I	必修	人文社会科学	人間文化科学	「学際的学術総論 IA」を履修し、1 単位を修得すること。
			現代社会科学	「学際的学術総論 IB」を履修し、1 単位を修得すること。
			アニメ・映像資源科学 日本酒学	「学際的学術総論 IA」、「学際的学術総論 IB」、「学際的学術総論 IC」、「学際的学術総論 ID」、「学際的学術総論 IE」のいずれか 1 科目を履修し、1 単位を修得すること。
		自然科学	物質創成・基礎科学	「学際的学術総論 IC」を履修し、1 単位を修得すること。
			システム創成科学 情報社会デザイン科学	「学際的学術総論 ID」を履修し、1 単位を修得すること。
			生命環境・食料科学 フィールド科学	「学際的学術総論 IE」を履修し、1 単位を修得すること。
			アニメ・映像資源科学 日本酒学 カーボンニュートラル融合科学 ひと脳・健康科学	「学際的学術総論 IA」、「学際的学術総論 IB」、「学際的学術総論 IC」、「学際的学術総論 ID」、「学際的学術総論 IE」のいずれか 1 科目を履修し、1 単位を修得すること。
		学際的学術総論 II	必修	全専攻
ライフ・イノベーション研究入門	必修	全専攻	全学位プログラム	開講される 1 科目を履修し、1 単位を修得すること。
ライフ・イノベーション研究演習	必修	全専攻	全学位プログラム	履修指定された科目を履修し、1 単位を修得すること。

イ 学際的基盤科目（選択必修科目）の履修方法

「ライフ・イノベーション PBL (M)」、「修士のためのキャリアマネジメントセミナー」のいずれか 1 科目・2 単位を修得すること。

ウ 学位共通科目・プログラム専門科目・課題研究・選択科目の履修方法

他専攻の科目やモジュールの選択が可能な場合もあります。詳しくは下の表を参照してください。

人文社会科学専攻

学位プログラム：人間文化科学

学位分野	学位共通科目	プログラム専門科目	課題研究
文学	主指導教員が担当する分野科目群から修得した4単位・1モジュールを含む8単位・2モジュールを、文学の学位に相当する科目群から修得すること。	人間文化科学プログラム専門科目群から6単位を修得すること。	分野単位で開講される下記8グループのうち、 ①課題研究 I-A (情報社会文化)、II-A (情報社会文化)、III-A (情報社会文化)、IV-A (情報社会文化) ②課題研究 I-A (思想科学)、II-A (思想科学)、III-A (思想科学)、IV-A (思想科学) ③課題研究 I-A (基礎心理学)、II-A (基礎心理学)、III-A (基礎心理学)、IV-A (基礎心理学) ④課題研究 I-A (臨床心理学)、II-A (臨床心理学)、III-A (臨床心理学)、IV-A (臨床心理学) ⑤課題研究 I-A (日本社会・言語文化)、II-A (日本社会文化ないし日本言語文化)、III-A (日本社会文化ないし日本言語文化)、IV-A (日本社会文化ないし日本言語文化) ⑥課題研究 I-A (日本語教育)、II-A (日本語教育)、III-A (日本語教育)、IV-A (日本語教育) ⑦課題研究 I-A (東アジア社会・言語文化)、II-A (東アジア社会文化ないし東アジア言語文化)、III-A (東アジア社会文化ないし東アジア言語文化)、IV-A (東アジア社会文化ないし東アジア言語文化) ⑧課題研究 I-A (欧米社会・言語文化)、II-A (欧米社会文化ないし英米言語文化ないしヨーロッパ言語文化)、III-A (欧米社会文化ないし英米言語文化ないしヨーロッパ言語文化)、IV-A (欧米社会文化ないし英米言語文化ないしヨーロッパ言語文化) のいずれか1グループを履修すること。
学術	メディア文化ないし人間形成環境科学分野科目群から修得した4単位・1モジュールを含む8単位・2モジュールを修得するか、主指導教員が担当する分野科目群から修得した4単位・1モジュールを含む8単位・2モジュールを、学位の異なる分野科目群から修得すること。	人間文化科学プログラム専門科目群から6単位を修得すること。	課題研究 I-A、II-A、III-A、IV-Aのうち、主指導教員が担当する科目を履修すること。

人文社会科学専攻

学位プログラム：現代社会科学

学位分野	学位共通科目	プログラム専門科目	課題研究
法学	法制ネットワーク分野科目群、国際社会分野科目群から、8単位・2モジュールを修得すること。	現代社会科学プログラム専門科目群から6単位を修得すること。	分野単位で開講される下記2グループのうち、 ①課題研究 I-B (法制ネットワーク)、II-B (法制ネットワーク)、III-B (法制ネットワーク)、IV-B (法制ネットワーク) ②課題研究 I-B (国際社会)、II-B (国際社会)、III-B (国際社会)、IV-B (国際社会) のいずれか1グループを履修すること。

行政学	行政ネットワーク分野科目群から、8単位・2モジュールを修得すること。	現代社会科学プログラム専門科目群から6単位を修得すること。	課題研究 I-B (行政ネットワーク)、II-B (行政ネットワーク)、III-B (行政ネットワーク)、IV-B (行政ネットワーク) を履修すること。
経済学	理論・計量経済分野科目群、グローバル社会経済ネットワーク分野科目群から、8単位・2モジュールを修得すること。	現代社会科学プログラム専門科目群から6単位を修得すること。	分野単位で開講される下記 2 グループのうち、 ①課題研究 I-B (理論・計量経済)、II-B (理論・計量経済)、III-B (理論・計量経済)、IV-B (理論・計量経済) ②課題研究 I-B (グローバル社会経済ネットワーク)、II B (グローバル社会経済ネットワーク)、III-B (グローバル社会経済ネットワーク)、IV-B (グローバル社会経済ネットワーク)のいずれか 1 グループを履修すること。
経営学	マネジメント分野科目群、アカウンティング分野科目群から、8単位・2モジュールを修得すること。	現代社会科学プログラム専門科目群から6単位を修得すること。	分野単位で開講される下記 2 グループのうち、 ①課題研究 I-B (マネジメント)、II-B (マネジメント)、III-B (マネジメント)、IV-B (マネジメント) ②課題研究 I-B (アカウンティング)、II-B (アカウンティング)、III-B (アカウンティング)、IV-B (アカウンティング)のいずれか 1 グループを履修すること。
学術	主指導教員が担当する分野科目群から修得した 4 単位・1 モジュールを含む 8 単位・2 モジュールを、学位の異なる分野科目群から修得すること。	現代社会科学プログラム専門科目群から6単位を修得すること。	課題研究 I-B、II-B、III-B、IV-B のうち、主指導教員が担当する科目を履修すること。

人文社会科学専攻

学位プログラム：アニメ・映像資源科学

学位分野	学位共通科目	プログラム専門科目	課題研究
文学	映像資源文化分野科目群から修得した 4 単位・1 モジュールを含む 8 単位・2 モジュールを、文学の学位に相当する分野科目群から修得すること。	現代社会科学プログラム専門科目群から6単位を修得すること。	課題研究 I-F (映像資源文化)、II-F (映像資源文化)、III-F (映像資源文化)、IV-F (映像資源文化) を履修すること。
学術	映像資源文化分野科目群から修得した 4 単位・1 モジュールを含む 8 単位・2 モジュールを、学位の異なる分野科目群から修得すること。	アニメ・映像資源科学プログラム専門科目群から 6 単位を修得すること。	課題研究 I-F (映像資源文化)、II-F (映像資源文化)、III-F (映像資源文化)、IV-F (映像資源文化) を履修すること。

人文社会科学専攻

学位プログラム：日本酒学

学位分野	学位共通科目	プログラム専門科目	課題研究
経営学	日本酒経済経営分野科目群から、8単位・2モジュールを修得すること。	日本酒学プログラム専門科目群から 6 単位を修得すること。	課題研究 I-G (日本酒学・経済学)、II-G (日本酒学・経済学)、III-G (日本酒学・経済学)、IV-G (日本酒学・経済学) を履修すること。
学術	日本酒経済経営分野科目群、日本酒生命食料科学分野科目群のうち、学位の異なる 2 つの分野科目群から 8 単位・2 モジュールを修得すること。	日本酒学プログラム専門科目群から 6 単位を修得すること。	課題研究 I-G (日本酒学・経済学)、II-G (日本酒学・経済学)、III-G (日本酒学・経済学)、IV-G (日本酒学・経済学) を履修すること。

自然科学専攻

学位プログラム：物質創成・基礎科学

学位分野	学位共通科目	プログラム専門科目	課題研究
理学	物質宇宙基礎科学分野科目群、数理科学分野科目群、基礎化学分野科目群から、8単位・2モジュールを修得すること。	物質創成・基礎科学プログラム専門科目群から6単位を修得すること。なお、物質創成・基礎科学演習 I～IVについては、主指導教員が担当する科目を履修すること。	分野単位で開講される下記3グループのうち、 ①課題研究 I-C (物質宇宙基礎科学)、II-C (物質宇宙基礎科学)、III-C (物質宇宙基礎科学)、IV-C (物質宇宙基礎科学)、 ②課題研究 I-C (数理科学)、II-C (数理科学)、III-C (数理科学)、IV-C (数理科学)、 ③課題研究 I-C (基礎化学)、II-C (基礎化学)、III-C (基礎化学)、IV-C (基礎化学) のいずれか1グループを履修すること。
工学	物質材料科学分野科目群、素材創成化学分野科目群から、8単位・2モジュールを修得すること。	物質創成・基礎科学プログラム科目群から6単位を修得すること。なお、物質創成・基礎科学演習 I～IVについては、主指導教員が担当する科目を履修すること。	分野単位で開講される下記2グループのうち、 ①課題研究 I-C (物質材料科学)、II-C (物質材料科学)、III-C (物質材料科学)、IV-C (物質材料科学)、 ②課題研究 I-C (素材創成化学)、II-C (素材創成化学)、III-C (素材創成化学)、IV-C (素材創成化学)のいずれか1グループを履修すること。
学術	物質宇宙基礎科学分野科目群、数理科学分野科目群、基礎化学分野科目群、物質材料科学分野科目群、素材創成化学分野科目群のうち、学位の異なる2つの分野科目群から8単位、2つのモジュールを修得すること。	物質創成・基礎科学プログラム専門科目群から6単位を修得すること。なお、物質創成・基礎科学演習 I～IVについては、主指導教員が担当する科目を履修すること。	課題研究 I-C、II-C、III-C、IV-Cのうち、主指導教員が担当する科目を履修すること。

自然科学専攻

学位プログラム：システム創成科学

学位分野	学位共通科目	プログラム専門科目	課題研究
工学	先進機械システム分野科目群、電子情報通信システム分野科目群、人間情報システム分野科目群から、8単位・2モジュールを修得すること。	システム創成 科学プログラム専門科目群から6単位を修得すること。なお、システム創成科学演習 I～IVについては、主指導教員が担当する科目を履修すること。	分野単位で開講される下記3グループのうち、 ①課題研究 I-D (先進機械システム)、II-D (先進機械システム)、III-D (先進機械システム)、IV-D (先進機械システム) ②課題研究 I-D (電子情報通信システム)、II-D (電子情報通信システム)、III-D (電子情報通信システム)、IV-D (電子情報通信システム) ③課題研究 I-D (人間情報システム)、II-D (人間情報システム)、III-D (人間情報システム)、IV-D (人間情報システム) のいずれか1グループを履修すること。
学術	専攻内の分野科目群から8単位・2モジュールを修得し、そのうち少なくとも4単位・1モジュールは先進機械システム分野科目群、電子情報通信システム分野科目群又は人間情報システム分野科目群から修得すること。	システム創成科学プログラム専門科目群から6単位を修得すること。なお、システム創成科学演習 I～IVについては、主指導教員が担当する科目を履修すること。	課題研究 I-D、II-D、III-D、IV-Dのうち、主指導教員が担当する科目を履修すること。

自然科学専攻

学位プログラム：生命環境・食料科学

学位分野	学位共通科目	プログラム専門科目	課題研究
理学	基礎生命科学分野科目群、地質学分野科目群、自然災害科学分野科目群から、8 単位・2 モジュールを修得すること。	生命環境・食料科学プログラム専門科目群から 6 単位を修得すること。なお、生命環境・食料科学演習 I～IV については、主指導教員が担当する科目を履修すること。	分野単位で開講される下記 3 グループのうち、 ①課題研究 I-E (基礎生命科学)、II-E (基礎生命科学)、III-E (基礎生命科学)、IV-E (基礎生命科学) ②課題研究 I-E (地質学)、II-E (地質学)、III-E (地質学)、IV-E (地質学) ③課題研究 I-E (自然災害科学)、II-E (自然災害科学)、III-E (自然災害科学)、IV-E (自然災害科学) のいずれか 1 グループを履修すること。
工学	都市・環境デザイン分野科目群から、8 単位・2 モジュールを修得すること。	生命環境・食料科学プログラム専門科目群から 6 単位を修得すること。なお、生命環境・食料科学演習 I～IV については、主指導教員が担当する科目を履修すること。	課題研究 I-E (都市・環境デザイン)、II-E (都市・環境デザイン)、III-E (都市・環境デザイン)、IV-E (都市・環境デザイン) を履修すること。
農学	応用生命・食品科学分野科目群、生物資源科学分野科目群、流域環境学分野科目群から、8 単位・2 モジュールを修得すること。	生命環境・食料科学プログラム専門科目群から 6 単位を修得すること。なお、生命環境・食料科学演習 I～IV については、主指導教員が担当する科目を履修すること。	分野単位で開講される下記 3 グループのうち、 ①課題研究 I-E (応用生命・食品科学)、II-E (応用生命・食品科学)、III-E (応用生命・食品科学)、IV-E (応用生命・食品科学) ②課題研究 I-E (生物資源科学)、II-E (生物資源科学)、III-E (生物資源科学)、IV-E (生物資源科学) ③課題研究 I-E (流域環境学)、II-E (流域環境学)、III-E (流域環境学)、IV-E (流域環境学) のいずれか 1 グループを履修すること。
学術	基礎生命科学分野科目群、地質学分野科目群、自然災害科学分野科目群、都市・環境デザイン分野科目群、応用生命・食品科学分野科目群、生物資源科学分野科目群、流域環境学分野科目群のうち、学位の異なる 2 つの分野科目群から 8 単位、2 つのモジュールを修得すること。	生命環境・食料科学プログラム専門科目群から 6 単位を修得すること。なお、生命環境・食料科学演習 I～IV については、主指導教員が担当する科目を履修すること。	課題研究 I-E、II-E、III-E、IV-E のうち、主指導教員が担当する科目を履修すること。

自然科学専攻

学位プログラム：アニメ・映像資源科学

学位分野	学位共通科目	プログラム専門科目	課題研究
工学	映像資源科学分野科目群から修得した 4 単位・1 モジュールを含む 8 単位・2 モジュールを、工学の学位に相当する分野科目群から修得すること。	アニメ・映像資源科学プログラム専門科目群から 6 単位を修得すること。	課題研究 I-F (映像資源科学)、II-F (映像資源科学)、III-F (映像資源科学)、IV-F (映像資源科学) を履修すること。
学術	映像資源科学分野科目群から修得した 4 単位・1 モジュールを含む 8 単位・2 モジュールを、学位の異なる分野科目群から修得すること。	アニメ・映像資源科学プログラム専門科目群から 6 単位を修得すること。	課題研究 I-F (映像資源科学)、II-F (映像資源科学)、III-F (映像資源科学)、IV-F (映像資源科学) を履修すること。

自然科学専攻

学位プログラム：日本酒学

学位分野	学位共通科目	プログラム専門科目	課題研究
農学	日本酒生命食料科学分野科目群から、8 単位・2 モジュールを修得すること。	日本酒学プログラム専門科目群から 6 単位を修得すること。	課題研究 I-G (日本酒学・農学)、II-G (日本酒学・農学)、III-G (日本酒学・農学)、IV-G (日本酒学・農学) を履修すること。
学術	日本酒経済経営分野科目群、日本酒生命食料科学分野科目群のうち、学位の異なる 2 つの分野科目群から 8 単位・2 モジュールを修得すること。	日本酒学プログラム専門科目群から 6 単位を修得すること。	課題研究 I-G (日本酒学・農学)、II-G (日本酒学・農学)、III-G (日本酒学・農学)、IV-G (日本酒学・農学) を履修すること。

自然科学専攻

学位プログラム：情報社会デザイン科学

学位分野	学位共通科目	プログラム専門科目	課題研究
工学	情報工学分野科目群、データサイエンス分野科目群、社会システム工学分野科目群から、8 単位・2 モジュールを修得すること。	情報社会デザイン科学プログラム専門科目群から 6 単位を修得すること。	課題研究 I-H (情報社会デザイン科学)、II-H (情報社会デザイン科学)、III-H (情報社会デザイン科学)、IV-H (情報社会デザイン科学) のうち、主指導教員が担当する科目を履修すること。
学術	情報工学分野科目群、データサイエンス分野科目群、社会システム工学分野科目群、経営学分野科目群のうち、学位の異なる 2 つの分野科目群から 8 単位・2 モジュールを修得すること。	情報社会デザイン科学プログラム専門科目群から 6 単位を修得すること。	課題研究 I-H (情報社会デザイン科学)、II-H (情報社会デザイン科学)、III-H (情報社会デザイン科学)、IV-H (情報社会デザイン科学) のうち、主指導教員が担当する科目を履修すること。

自然科学専攻

学位プログラム：カーボンニュートラル融合科学

学位分野	学位共通科目	プログラム専門科目	課題研究
工学	電気エネルギー総合理工学分野科目群、熱・化学エネルギー総合理工学分野科目群から、8 単位・2 モジュールを修得すること。	カーボンニュートラル融合科学プログラム専門科目群から 6 単位を修得すること。	課題研究 I-J (カーボンニュートラル融合科学)、II-J (カーボンニュートラル融合科学)、III-J (カーボンニュートラル融合科学)、IV-J (カーボンニュートラル融合科学) を履修すること。
学術	専攻内の分野科目群から 8 単位・2 モジュールを修得し、そのうち少なくとも 4 単位・1 モジュールを電気エネルギー総合理工学分野科目群又は熱・化学エネルギー総合理工学分野科目群から修得すること。	カーボンニュートラル融合科学プログラム専門科目群から 6 単位を修得すること。	課題研究 I-J (カーボンニュートラル融合科学)、II-J (カーボンニュートラル融合科学)、III-J (カーボンニュートラル融合科学)、IV-J (カーボンニュートラル融合科学) を履修すること。

自然科学専攻

学位プログラム：フィールド科学

学位分野	学位共通科目	プログラム専門科目	課題研究
理学	地球惑星科学分野科目群、自然共生科学分野科目群から、8 単位・2 モジュールを修得すること。	フィールド科学プログラム専門科目群から 6 単位を修得すること。	課題研究 I-K (フィールド科学・理)、II-K (フィールド科学・理)、III-K (フィールド科学・理)、IV-K (フィールド科学・理) を履修すること。

農学	地球惑星科学分野科目群、自然共生科学分野科目群から、8単位・2モジュールを修得すること。	フィールド科学プログラム専門科目群から6単位を修得すること。	課題研究 I-K(フィールド科学・農)、II-K(フィールド科学・農)、III-K(フィールド科学・農)、IV-K(フィールド科学・農)を履修すること。
学術	専攻内の分野科目群から8単位・2モジュールを修得し、そのうち少なくとも4単位・1モジュールは地球惑星科学分野科目群又は自然共生科学分野科目群から修得すること。	フィールド科学プログラム専門科目群から6単位を修得すること。	課題研究 I-K、II-K、III-K、IV-Kのうち、主指導教員が担当する科目を履修すること。

自然科学専攻

学位プログラム：ひと脳・健康科学

学位分野	学位共通科目	プログラム専門科目	課題研究
理学	ひと脳・健康科学I分野科目群、ひと脳・健康科学II分野科目群から、8単位・2モジュールを修得すること。	ひと脳・健康科学プログラム専門科目群から6単位を修得すること。	課題研究 I-L(ひと脳・健康科学)、II-L(ひと脳・健康科学)、III-L(ひと脳・健康科学)、IV-L(ひと脳・健康科学)を履修すること。
学術	専攻内の分野科目群から8単位・2モジュールを修得し、そのうち少なくとも4単位・1モジュールはひと脳・健康科学I分野科目群又はひと脳・健康科学II分野科目群から修得すること。	ひと脳・健康科学プログラム専門科目群から6単位を修得すること。	課題研究 I-L(ひと脳・健康科学)、II-L(ひと脳・健康科学)、III-L(ひと脳・健康科学)、IV-L(ひと脳・健康科学)を履修すること。

○ 学位共通科目群とそれに対応する専門分野

人文社会科学専攻・人間文化科学プログラム	
学位共通科目・分野科目群	対応する専門分野
メディア文化	学術
情報社会文化	文学
思想科学	文学
基礎心理学	文学
臨床心理学	文学
人間形成環境科学	学術
日本社会・言語文化	文学
日本語教育	文学
東アジア社会・言語文化	文学
欧米社会・言語文化	文学

人文社会科学専攻・現代社会科学プログラム	
学位共通科目・分野科目群	対応する専門分野
行政ネットワーク	行政学
法制ネットワーク	法学
国際社会	法学
理論・計量経済	経済学
グローバル社会経済ネットワーク	経済学
マネジメント	経営学
アカウンティング	経営学

人文社会科学専攻・アニメ・映像資源科学プログラム	
学位共通科目・分野科目群	対応する専門分野
映像資源文化	文学
映像資源科学	工学

人文社会科学専攻・日本酒学プログラム	
学位共通科目・分野科目群	対応する専門分野
日本酒経済経営	経営学
日本酒生命食料科学	農学

自然科学専攻・物質創成・基礎科学プログラム	
学位共通科目・分野科目群	対応する専門分野
物質宇宙基礎科学	理学
数理科学	理学
基礎化学	理学
物質材料科学	工学
素材創成化学	工学

自然科学専攻・システム創成科学プログラム	
学位共通科目・分野科目群	対応する専門分野
先進機械システム	工学
電子情報通信システム	工学
人間情報システム	工学

自然科学専攻・生命環境・食料科学プログラム	
学位共通科目・分野科目群	対応する専門分野
基礎生命科学	理学
応用生命・食品科学	農学
生物資源科学	農学
流域環境学	農学
都市・環境デザイン	工学
地質学	理学
自然災害科学	理学

自然科学専攻・アニメ・映像資源科学プログラム	
学位共通科目・分野科目群	対応する専門分野
映像資源文化	文学
映像資源科学	工学

自然科学専攻・日本酒学プログラム	
学位共通科目・分野科目群	対応する専門分野
日本酒経済経営	経営学
日本酒生命食料科学	農学

自然科学専攻・情報社会デザイン科学プログラム	
学位共通科目・分野科目群	対応する専門分野
情報工学	工学
データサイエンス	工学
社会システム工学	工学
経営学	経営学

自然科学専攻・カーボンニュートラル融合科学プログラム	
学位共通科目・分野科目群	対応する専門分野
電気エネルギー総合理工学	工学
熱・化学エネルギー総合理工学	工学

自然科学専攻・フィールド科学プログラム	
学位共通科目・分野科目群	対応する専門分野
地球惑星科学	理学, 農学
自然共生科学	理学, 農学

自然科学専攻・ひと脳・健康科学プログラム	
学位共通科目・分野科目群	対応する専門分野
ひと脳・健康科学 I	理学
ひと脳・健康科学 II	理学

IV 学位

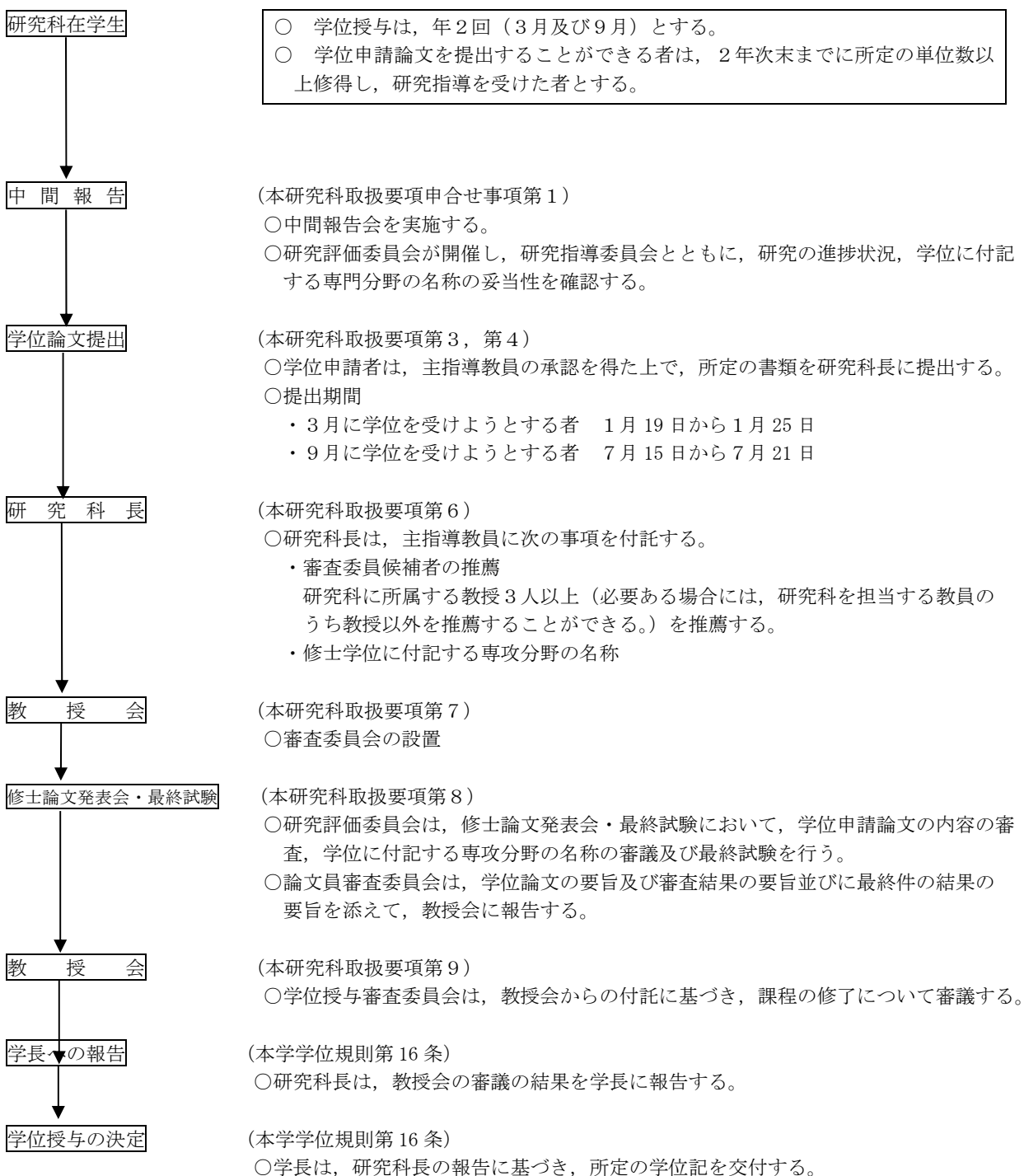
IV 学位

本研究科修士課程を修了した者には、修士の学位が授与されます。

学位論文（特定の課題についての研究成果に関する報告書を含む。）の提出資格及び申請手続並びに論文審査等については、本学学位規則によるほか、本研究科の取扱いについては、「○学位授与に係る手続等」及び「○学位申請論文等の作成要領」を熟読してください。

○ 修士課程修了による学位授与に関する取扱概略図

学位授与の決定までの流れを示したものです。日程の詳細は、総合学術研究科運営委員会において決定します。また、本研究科修士課程の修了要件のうち、修業年限の特例に関し、「優れた業績を上げた者」に該当する場合は、以下と異なる部分がありますので、主指導教員と相談しながら進めてください。



○ 中間報告

学位を取得しようとする学生は、研究の中間報告を行い、評価・指導を受けます。

中間報告は、研究評価委員会内の各専門部会によって開催され、研究指導委員会以外の教員も加わって、研究の進捗情報の確認のほか、取得予定学位の専門分野の妥当性に関する確認も併せて行います。他分野・学際的な視点から、自らの研究を再検討する機会となるもので、必要に応じて研究課題や研究方法を修正することも可能です。

開催時期や実施方法等については、当該学生が所属するプログラム等において定めています。

○ 学位授与に係る手続等

1 学位申請論文の提出資格

次の(1)又は(2)の修士課程の修了要件を満たし得ると認められた者となります。

- (1) 本研究科に在学中で、本研究科規程第9条第2項に定める単位を第2年次末までに修得し、かつ、必要な研究指導を受けた者
- (2) 本学大学院学則第32条第1項ただし書による優れた研究業績を上げた者として、教授会が認められた者で、本研究科規程第9条第2項に定める単位を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた者

(参考)

・本研究科規程第9条第2項：

授業科目について、学際的基盤科目群から6単位以上、学位共通科目群から8単位以上、プログラム専門科目群から6単位以上及び課題研究から8単位を含む、合計30単位以上を修得しなければならない。

・本学大学院学則第32条第1項：

修士課程及び博士前期課程の修了の要件は、その研究科に2年以上在学し、その研究科が定める授業科目について30単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、当該課程の目的に応じ、その研究科の行う修士論文又は特定の課題についての研究の成果の審査及び最終試験に合格することとする。ただし、在学期間に関しては、優れた業績を上げた者については、その研究科に1年以上在学すれば足りるものとする。

2 学位申請論文の提出

主指導教員から学位申請論文の提出を認められた者で、学位申請論文の審査を願い出る者は、次により所定の書類を研究科長に提出してください。

(1) 提出書類

- | | | |
|---|---|----|
| ① | 論文審査出願書（様式1） | 1部 |
| ② | 学位申請論文（A4版とし、和文又は英文とする。） | 1部 |
| ③ | 履歴書（様式2） | 1部 |
| ④ | 論文の要旨（和文2,000字程度、英文800～900words程度）（様式3） | 1部 |
| ⑤ | 論文目録（様式4） | 1部 |
| ⑥ | 履修状況確認書類 | 1部 |

(2) 学位申請論文の提出期間は、次のとおりです。

3月に学位を受けようとする者 1月19日から1月25日まで

9月に学位を受けようとする者 7月15日から7月21日まで

3 修士論文発表会・最終試験

修士論文発表会は、研究評価委員会が開催します。また、最終試験は、修士論文発表会において、同論文の内容を中心として口頭試問により行います。

4 学位論文の審査

学位論文の審査を行い、修士論文に値することを判定し、付与する学位分野の認定を行います。

○学位論文審査基準

1. 研究内容

研究内容は、新規性、独創性、有用性を備えていること。

2. 研究動向の把握

先行研究について適切に検討しており、自らの研究の背景、意義や重要性を理解していること。

3. 研究方法の適切性

研究テーマに即した研究方法が選択されており、その研究方法に従ってデータや資料などを的確に調査・分析していること。

4. 研究結果の解析

研究結果の解析が適切であり、あらたな知見を得られたこと。

5. 論述の明確性及び論旨の一貫性

結論に至るまでの論述や論証のプロセスが明確かつ論理的であること。

6. 論文形式の適切性

文献の引用、文章表現等が適切になされ、学位論文としての体裁が整っていること。

7. 論文発表能力

研究科が開催する修士論文発表会・最終試験において自らの研究を論理的に提示でき、質疑に適切に答えられること。

5 学位の授与

論文審査及び最終試験に合格した者には、修士の学位を授与します。

○ 学位申請論文等の作成要領

本研究科において、修士課程の学位申請論文の審査を願い出る者は、この作成要領によって書類を作成してください。

書類に不備等がある場合は、受理されませんので、必ず主指導教員等の点検を受けてください。

【学位申請論文の書類作成について】

ワープロソフトを用いての作成を原則とします。

(1) 論文審査出願書〔様式1〕

① 中間報告結果報告書欄がありますので、「実施日時」、「実施場所」、「研究指導委員会」、「中間報告時修得予定学位の専門科目」を控えておいてください。

(2) 学位申請論文（A4版とし、和文又は英文とします。）

① 学位申請論文は、論文題名、専攻名、プログラム名、氏名を必ず記載してください。

② 記載は、縦位置、横書きとします。

③ 提出後の学位申請論文は、訂正、差換えができませんので、誤字、脱字、あて字等のないよう注意してください。

④ 論文の表紙は、所定の様式で作成してください。

(3) 履歴書〔様式2〕

① 記載例を参照の上、作成してください。

② 氏名は、戸籍のとおり記載してください。また、氏名には必ずふりがなを付してください。

③ 本籍地については、都道府県名のみ記載してください。外国籍の者は、国名を記載してください。

④ 学歴については、大学卒業、大学院修了予定等の事項について歴年順に記載してください。

⑤ 研究歴については、本研究科入学前に研究生として在学した場合、その事項を歴年順に記載してください。研究歴がない場合は、「なし」と記載してください。

⑥ 職歴については、常勤の職について、その勤務先、職名等を歴年順に記載してください。ただし、非常勤の職であっても、特に教育・研究に関連するものにつきましては、記載することが望ましいです。職歴がない場合は、「なし」と記載してください。

(4) 論文の要旨〔様式3〕

① 様式3の「表紙」を付してください。

② 本文は、所定の様式により和文2,000字程度又は英文800~900wordsにまとめてください。

(5) 論文目録〔様式4〕

① 記載例を参照の上、作成してください。

② 論文題名（副題を含む。）は、提出論文のとおり記載してください。

論文題名は、提出後に訂正等がないよう、主指導教員と十分に相談して記入してください。

③ 論文題名が英文の場合は、英文の下に日本語の訳文をカッコ書きで記入してください。

④ 参考論文は、学位申請者が今までに発表した論文で、主論文と関係のある論文について記入をしてください。（主論文と関係のない論文は、記入しないでください。）

(6) 履修状況確認書類

① 授業科目の履修状況について、見込みを含めて確認ができる書類を提出します。（成績確認表及び履修科目確認表）

履 歴 書

報告番号	第 号 ※記入しない		
ふりがな			性別
氏 名			男・女
生年月日	(西暦) 年 月 日 (※日本人学生のみ和暦: 昭和・平成 年)		
本 籍 ※戸籍の所在地	都道 府県 (留学生は国籍)	在籍番号	
現住所 電話番号	〒 - () -		
学歴 (大学卒業後から本研究科修了見込まで、漏れなく記入すること。)			
年 月 日 大学 学部 学科卒業			
年 月 日 新潟大学大学院総合学術研究科〇〇専攻			
プログラム修士課程 入学			
年 月 日 新潟大学大学院総合学術研究科〇〇専攻			
プログラム修士課程 修了予定			
研究歴			
年 月 日 大学 学部 学科 教授の下で、研究生として			
～ 年 月 日 についての研究に従事			
年 月 日 株式会社／ 研究所において、 に関する			
～ 年 月 日 研究に従事			
※研究歴がない場合は「なし」と記入。			
職 歴			
年 月 日 株式会社 研究所研究員			
年 月 日 同上退職			
※職歴がない場合は「なし」と記入。			

注) 一部の記載内容は、学位記等の記載へ反映されるため、誤字脱字に十分注意してください。

論文目録

報告番号 ※記入しない	修 () 第 号	在籍番号	
	専攻 プログラム	氏 名	
<p>学位申請論文</p> <p>題名) * * * * * の研究 又は Research of * * * * * (* * * * * の研究) ※和訳を付すこと</p> <p>参考論文は以下のとおり 1 編である。</p> <p>1. 著者名および題名</p> <p>注1. 論文題名が外国語の場合は、題目の下に日本語の訳文をカッコ書きで記入してください。 2. 参考論文は、著者名、論文名、雑誌等の発行年月日、雑誌名、巻、号、掲載頁を記入してください。 著者が複数の場合は、当該雑誌等に記載された著者名の順に全員記入してください。 ただし、多数の場合には、主な共著者5名程度を記入し、その後に「他〇名」と表示してください。 掲載頁は、初めと終わりの頁を記入してください。 なお、論文が未発表で掲載決定の場合は、頁を記入する必要はありませんが、学会等からの「掲載決定証明書の写し」を添付してください。</p>			

学位申請論文の表紙〔作成例〕

●横書き・日本語

学 位 論 文 名
— 副 題 —
新潟大学大学院総合学術研究科修士課程
○○○○専攻
○○○○プログラム
氏名 ○○ ○○

●横書き・英語

Study on ○○○
- Subtitle -
Master's Program of ○○○○
Graduate School of Integrated Arts and Sciences,
Niigata University
Name ○○ ○○

●縦書き・日本語

学 位 論 文 名
— 副 題 —
新潟大学大学院総合学術研究科修士課程
○○○○専攻
○○○○プログラム
氏名 ○○ ○○

○新潟大学大学院総合学術研究科における修士課程修了による学位授与に関する 取扱要項

(令和8年4月1日大学院総合学術研究科長裁定)

第1 趣旨

この要項は、新潟大学大学院総合学術研究科(以下「研究科」という。)における課程修了による修士の学位授与に関する取扱いに関し、必要な事項を定めるものとする。

第2 学位申請論文の提出資格等

学位論文(特定の課題についての研究成果に関する報告書を含む。以下同じ。)審査を申請することができる者は、必要な研究指導を受けた者で、学位を受けようとする学期末において、次の各号のいずれかに該当する者とする。

- (1) 所定の修業年限以上在学し、かつ、所定の単位数以上を修得する者
- (2) 優れた業績を上げた者として教授会が認めた者(新潟大学大学院総合学術研究科規程(令和8年院総?規程第〇号)第8条の規定による履修者を除く。)で、1年以上在学し、かつ、所定の単位数以上を修得する者

第3 主指導教員の承認

学位論文審査を申請しようとする者は、各自の主指導教員の承認を得た上で第4に定める手続等を行うこと。

第4 学位申請論文の提出手続等

1 第3の承認を得た者は、次の各号に掲げる書類等を、新潟大学大学院総合学術研究科長(以下「研究科長」という。)に提出する。この場合において、研究科長は、審査のため必要があるときは、書類等の追加を求めることができる。

- (1) 論文審査出願書(別記様式第1号) 1部
- (2) 学位申請論文(A4版とし、和文又は英文とする。) 1部
- (3) 履歴書(別記様式第2号) 1部
- (4) 論文の要旨(和文 2,000字程度、英文 800~900word程度)(別記様式第3号) 1部
- (5) 論文目録(別記様式第4号) 1部
- (6) 履修状況確認書類 1部

2 学位申請論文の提出期間は、次のとおりとする。

- (1) 3月に学位を受けようとする者
1月19日から1月25日まで
- (2) 9月に学位を受けようとする者
7月15日から7月21日まで

第5 学位申請論文の受理

研究科長は、学位申請論文等を受理したときは、教授会に審査を付託しなければならない。

第6 審査委員候補者の推薦等

- 1 研究科長は、主指導教員に第7に規定する論文審査委員会の審査委員候補者の推薦を付託する。
- 2 前項の規定に加え、研究科長は、主指導教員に修士の学位に付記する専攻分野の名称の選定を付託する。
- 3 主指導教員は、第1項及び前項の付託を受けたときは、学位申請論文ごとに、研究科を担当する教授のうちから3人の者を審査委員候補者(主査1人、副査2人とする。)として推薦し、及び修士の学位に付記

する専攻分野の名称を選定する。ただし、必要があるときは、研究科を担当する教員のうち教授以外を推薦することができる。

- 4 審査のため必要があるときは、前項の審査委員候補者に研究科若しくは本学大学院の他の研究科、研究所等の教員又は他の大学の大学院、研究所等の教員等を加えることができる。
- 5 主指導教員は、審査委員候補者推薦結果を所定様式(別記様式第5号)により速やかに研究科長に報告しなければならない。

第7 論文審査委員会の設置

教授会は、学位申請論文ごとに論文審査委員会を設置するものとし、第6第5項により主指導教員から推薦のあった審査委員候補者について審議し、審査委員(主査1人、副査2人以上)を決定するものとする。

第8 論文の審査及び最終試験

- 1 論文審査委員会は、研究評価委員会が開催する公開の修士論文発表会・最終試験において、学位申請論文の内容の審査、学位に付記する専攻分野の名称の審議及び最終試験を行うものとし、別に定める日までに終了しなければならない。
- 2 論文審査委員会は、審査が終了したときは、学位論文の要旨及び審査結果の要旨(別記様式第6号)並びに最終試験の結果の要旨(別記様式7号)を添えて、教授会に報告する。

第9 課程修了の審議

教授会は、第8第2項の報告を受け、学位授与審査委員会に課程修了の審議について付託するものとする。

附 則

この要項は、令和8年4月1日から実施する。

○新潟大学大学院総合学術研究科における修士課程修了による学位授与に関する取扱要項申合せ

(令和8年4月1日大学院総合学術研究科長裁定)

第1

新潟大学大学院総合学術研究科における修士課程修了による学位授与に関する取扱要項(以下「取扱要項」という。)第3に規定する学位論文審査を申請しようとする者についての主指導教員の承認に関して、次のとおり取り扱うことを原則とする。

- (1) 中間報告会を実施する。
- (2) 中間報告会は、研究評価委員会が開催し、研究指導委員会とともに、研究の進捗状況の確認のほか、修得予定学位の専門分野の妥当性に関する確認を行う。
- (3) 中間報告会の実施方法等については、当該学生が所属するプログラムにおいて定める。

第2

- 1 取扱要項第9及び新潟大学学位規則(平成16年規則第30号)第16条の規定により、修士の学位を授与すべき者と認定されなかった場合は、申請者は、学長に対しその理由の説明を求めることができるものとする。
- 2 修士の学位を授与すべき者と認定されなかった場合、次期以降の学位論文審査に同一研究題目による学位論文の申請を妨げるものではない。

○新潟大学大学院総合学術研究科修士課程における修業年限の特例に関する 取扱要領

(令和8年4月1日大学院総合学術研究科長裁定)

新潟大学大学院学則(平成16年大学院学則第1号)第32条第1項に規定する本研究科修士課程の修了要件のうち、修業年限の特例に関し、「優れた業績を上げた者」の適用に当たっては、次により取り扱うものとする。

記

1 適用条件(次の(1)～(4)の条件をすべて満たした者。ただし、新潟大学大学院総合学術研究科規程(令和8年院総規程第 号)第8条による履修者を除く。)

- (1) 当該専攻で認める学術雑誌に掲載(掲載決定のあったものを含む。)された論文が1編以上あり、かつ、その内容が学問的に価値が高いものであること。
- (2) 本研究科修士課程に1年以上在学見込みの者で、修了に必要な単位を修得又は修得見込みの者であること。
- (3) 所定の期日までに学位論文の提出が可能であること。
- (4) 各専攻で別に定める条件を満たした者であること。

2 提出書類

本特例の適用を受けようとする者は、研究指導委員会を通じて、次の書類により研究科長に申請するものとする。

- (1) 修業年限特例推薦書(別紙様式)
- (2) 論文草稿要旨
- (3) 参考論文(印刷公表されたもの又は公表予定のもの)
- (4) 論文目録
- (5) 履歴書
- (6) 掲載決定証明書(論文が公表予定の場合)

3 特例適用の判定方法

当該学生の研究指導委員会委員長から、「優れた業績を上げた者」として修業年限の特例の適用について推薦があったときは、学位論文の審査申請前に教授会 に諮り、その適用の可否について判定するものとする。

なお、この判定に際しては、あらかじめ記の5に定める修業年限特例小委員会において、当該学生の研究業績等が記の1の適用条件を満たしているか否かについて審査するものとする。

4 プログラムでの審査

研究成果発表会の結果、当該学生の研究指導委員会委員長が「優れた業績を上げた者」に該当する者として修業年限の特例の適用を研究科長に推薦しようとするときは、あらかじめプログラムにおいて、記の1の適用条件を満たしているか否かについて審査するものとする。

5 修業年限特例小委員会

- (1) 本研究科修士課程の修了要件に関して、「優れた業績を上げた者」として修業年限の特例の適用可否

について審査するため、教授会の下に修業年限特例小委員会（以下「特例小委員会」という。）を設置するものとする。

(2) 特例小委員会は、特例申請者の当該プログラムの教員で組織する。

ただし、他プログラムから各1人の教員を含めることができる。

(3) 特例小委員会の設置及び委員の選出については、教授会から運営委員会への付託事項とする。

(4) 特例小委員会の組織、運営等に関する事項は、別に定める。

付 記

1 記の1(4)の各プログラムが別に定める条件は、各プログラムで策定するものとする。

2 本研究科においては、当分の間、この取扱要領により修業年限の特例の実績を積み重ねることとするが、実情に合うよう早期に見直しを行うものとする。

V 学生生活

V 学生生活

1 学務事務（受付窓口）

学務事務は、以下のとおり担当します。

○人文社会科学専攻

人文社会科学系大学院学務係（事務室：人文社会科学系棟D棟1階）

メールアドレス：jimugen@cc.niigata-u.ac.jp

窓口開設時間（兼 電話、Eメール対応時間）：平日9時00分から16時30分まで

○自然科学専攻

自然科学研究科学務係（事務室：大学院自然科学研究科 管理・共通棟1階）

メールアドレス：z-gakumu@niigata-u.ac.jp

窓口開設時間（兼 電話、Eメール対応時間）：平日8時30分から17時15分まで

2 学生への連絡方法

① 掲示板

重要な情報を多く掲示しています。定期的に確認してください。

◆人文社会科学専攻 人文社会科学系棟 B棟1階

◆自然科学専攻 大学院自然科学研究科 管理・共通棟1階

なお、物質・生産棟，生命環境棟にも掲示板がありますが，スペースの都合上，重要な掲示は，管理・共通棟1階に掲示しますので，注意してください。

② 学務情報システム

学務情報システムの連絡通知（メール機能含む）を利用し，情報をお知らせします。1日1回は必ず確認してください

③ 総合学術研究科ホームページ

④ Eメール

大学発行のメールアドレス宛に連絡する場合があります。

◆人文社会科学系大学院学務係メールアドレス：jimugen@cc.niigata-u.ac.jp

◆自然科学研究科学務係メールアドレス：z-gakumu@adm.niigata-u.ac.jp

⑤ 電話

緊急の場合は、電話で連絡をすることがあるため、大学からの電話（電話番号「025-262-〇〇〇〇）には必ず出るようにしてください。入学時と連絡先が変わった場合は、学務情報システムの連絡先を各自で更新してください。

3 諸手続

各種手続には、規程等により定められているもの、掲示により指示するもの、学生のみなさんが必要の都度手続を行うものなどがあります。これらの手続を怠ったり、不十分であったり、時機を逸したりすると、不利益を受けるばかりでなく、修学上にも支障を来すことがあります。十分注意してください。

① 退学及び休学について

就学意思がないにもかかわらず、退学又は休学の申請をしていないため、当該期の授業料の徴収手続が進められ、その結果「除籍」など学籍に重大な影響を及ぼすことが生じるので、必ず事前に申請手続を行ってください。

② 長期欠席届

病気その他の理由により2週間以上欠席する場合は、「長期欠席届」(所定様式)を学務係に提出してください。

③ 身上異動

改氏名、学資負担者の変更等がある場合は、学務係に申し出のうえ、所定の手続きを行ってください。

④ 海外渡航計画書

留学や海外旅行などで出国する予定がある場合は、事前に「海外渡航計画書」を学務情報システムから登録してください。

また、外務省海外旅行登録「たびレジ」に登録し、海外旅行保険にも必ず加入してください。

※大学の海外渡航に関する方針が変更になった場合は、その際の取り扱いに従ってください。

4 証明書の発行

①大学構内(各学部・研究科学務係窓口(人文学部、創生学部を除きます)、総合教育研究棟A棟1階の②番・③番窓口など)にある証明書発行機から、次の証明書が随時発行できます。

◆ 在学証明書、修了見込証明書(修了年次のみ)、成績証明書、JR学割証、健康診断証明書、在寮証明書

・証明書発行機の利用は、平日8時30分～17時15分です(ただし、人文社会科学系棟では平日9時00分～16時30分です)。夜間、土・日・祝日、大学夏期一斉休業(8月中旬)及び年末年始は、証明書発行機は利用できませんので、注意してください。

・証明書発行機の利用には、学生証及び学務情報システムのパスワードが必要です。

・証明書発行機は、駅南キャンパス「ときめいと」(新潟駅隣接)にも設置しています。

・「修了見込証明書」の発行は、修了年次に進級後の発行です。

・「成績証明書」への通年科目の成績記載は、新年度開始日以降です。

② JR通学定期乗車券用の通学証明書の発行は、学生証を持参し、学務係窓口申請してください(その場で発行します)。

③ 特殊証明書の発行には、申請から発行まで2営業日(申請日・交付日を含まない)かかります。学生証及び応募要項等を持参のうえ、学務係窓口で余裕をもって申請してください。

5 関係校舎等の使用

授業、研究等において主に人文社会科学系棟、自然科学研究科棟を使用します。使用等について以下確認してください。

① 建物の出入り

学生はどの校舎への入退校も自由ですが、夜間および土・日・休日等は施錠されます。

入退校については、校舎ごとの規則に従ってください。

◆人文社会科学系棟

i 授業期間及び夏期休業期間の平日は以下のとおりです。

開錠時刻：7時30分～8時00分 施錠時刻：19時40分～20時40分

ii 冬期休業期間及び春期休業期間の平日は以下のとおりです。

開錠時刻：7時30分～8時00分 施錠時刻：18時00分～19時00分

iii 土・日曜日、祝日は終日施錠しています。

※A棟正面玄関およびF棟玄関の鍵は、オートロックドア(カードキーによる開錠方式)および手動の併用です。施錠後の退庁は、随時可能です。カード所有者は、随時入庁可能です。

※上記のオートロックドア以外の出入口(A棟正面玄関、B棟学生玄関、B棟通用口、C棟玄

関、E棟地階出入口およびF棟玄関)の鍵は手動です。

◆自然科学研究科棟

i 自然科学研究科棟(管理・共通棟, 総合研究棟(物質・生産系, 情報・理工系, 生命・環境系, 環境・エネルギー系))の正面玄関及び通用口の開放時間は次のとおりです。

出入口開放時間: 平日7時45分から19時00分まで(各棟共通)

ii 上記以外の夜間・休日は, 学生証をカードリーダーに通すことにより開錠できます。

◆理学部棟・工学部棟・農学部棟への出入り

夜間・休日に建物に入るには事前手続きが必要です。

学系会計係(自然科学研究科 管理・共通棟2階)で所定用紙を受け取り, 記入及び指導教員押印のうえ, 次の提出先に提出してください。

◆提出先

理学部棟: 理学部総務係(理学部A棟1階)

農学部棟: 農学部総務係(農学部A棟1階)

工学部棟: 指導教員の所属するプログラム事務室

② 教室, 研究室等の使用

教室・ゼミ室の使用は予約が必要です。予約は教員が行います。

③ 掲示物

掲示スペースに余裕がある場合に限り, 掲示を許可します。学務係に申し出てください。

掲示板以外の場所(防火扉, 壁面等)への貼付は, 絶対行わないでください。

④ 郵便物

学生宛て郵便物は大学に送付しないことを原則としますが, 研究活動において止むを得ない場合は, 宛先に「〇〇学部〇〇〇教授研究室気付」など, 学生氏名のほか, 教員の所属・氏名を必ず記入してください。

⑤ 駐車場の利用

・入構票の交付を受けていない場合は, 自動車・バイク等で大学構内へ入ることができません。希望する場合は, 必ず入構票の交付を受けてください(ただし, 発行条件があります)。申込時期は年2回(4月・10月)です。掲示により申込方法等についてお知らせします。

・来客用駐車場には, 駐車しないでください。(例: 自然科学研究科管理・共通棟正面玄関前の駐車場など)

・バイクは, 所定の「自動二輪車・バイク置場」に駐輪してください。

・入構票の掲示のない自動車及び「自動二輪車・バイク置場」以外に置いてあるバイク等については, 貼紙により警告します。

⑥ キャンパス内全面禁煙

新潟大学はキャンパス内全面禁煙です。

茂みに隠れての喫煙・ポイ捨ては火災の原因にもなるため, 絶対にしないでください。またキャンパス周辺でも, 節度ある喫煙マナーを心掛けましょう。

6 ごみだしのルール

大学(事業所)では, ごみの分別が一般家庭と異なります。また, 実験系廃棄物等は, 処理方法を誤ると大変危険ですので注意してください。

◆自然科学研究科棟の場合

- ① 一般ごみ：情報理工系協の所定のごみ置場に分別して出してください。
- ② 古紙：再生可能な紙ごみは、「燃やすごみ」として出せません。古紙回収へ出してください。
- ③ 雑紙（ざつがみ）
- ④ 粗大ごみ（パソコン等含む）：回収時期 年3回
- ⑤ 実験系廃棄物
 - ・ 実験系廃棄物は、一般ごみと区別し、所定の方法により処分してください。詳細は本学の「環境安全推進センター」ホームページ (<http://www.esc.niigata-u.ac.jp/>) を参照してください。
 - ・ 実験で使用した注射針等は「感染性廃棄物」として区別されます。危険ですので必ず専用容器に入れ、学系会計係（自然科学研究科 管理・共通棟2階）まで持参してください。

7 個人情報保護について

本研究科では、個人情報保護の重要性を深く認識し、「個人情報の保護に関する法律」を遵守するとともに、本研究科の教育・研究、学生支援、大学運営の目的で作成又は取得した個人情報は、適正な管理と保護に努めています。

ご不明な点がありましたら、所属専攻の学務係にお問い合わせください。

VI 資格取得等

- 1 教育職員免許状の取得
- 2 公認心理師受験資格
- 3 臨床心理士受験資格

VI 資格取得等

1 教育職員免許状の取得

教育職員免許状は、教育職員免許法及び同法施行規則に定めるところに従って授与されます。

取得することができる免許状の種類、教科は、本便覧 I - 5 「新潟大学大学院総合学術研究科規程」の別表第3を参照してください。

専修免許状は、一種免許状に必要な単位に加え、大学院で所定の単位（24 単位）を修得し、大学院を修了（修士の学位を取得）することで得られます。

新潟大学教育基盤機構全学教職センターのウェブサイトに掲載している「教員免許状取得ハンドブック」も参照してください。

<https://www.kyoshoku.niigata-u.ac.jp/download/index.html>

教員免許状の取得に該当する授業科目は、別途通知します。

2 公認心理師受験資格

大学において所定の心理学等に関する科目を修め、かつ、人文社会科学専攻 人間文化科学プログラム 臨床心理学分野 において下表の科目全ての単位を取得し、同専攻を修了した者は、公認心理師試験の受験資格を得ることができます。なお、大学において所定の心理学に関する科目を修めているか否かは、本研究科で判断することはできませんので、各自出身大学に確認してください。

表 公認心理師試験受験資格を取得するために必要な履修科目

精神医学特論（保健医療分野に関する理論と支援の展開）
障害児心理学 I 特論（福祉分野に関する理論と支援の展開）
学校臨床心理学特論（教育分野に関する理論と支援の展開）
犯罪心理学特論（司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開）
産業心理学特論（産業・労働分野に関する理論と支援の展開）
臨床心理査定演習 I（心理的アセスメントに関する理論と実践）*
臨床心理面接特論 I（心理支援に関する理論と実践）*
家族心理学特論（家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践）
メンタルヘルス教育特論（心の健康教育に関する理論と実践）
臨床心理実習 I（心理実践実習）*
臨床心理実習 III（心理実践実習）*

注1：この表にある科目を全ての単位を取得する必要があります。

注2：*のある科目は、臨床心理学分野以外の学生が授業を履修することはできません。

3 臨床心理士受験資格

人文社会科学専攻 人間文化科学プログラム臨床心理学分野を専攻し、下表の科目のうち、必修科目全てと、選択必修科目A～Eのそれぞれについて1科目以上単位を修得し同専攻を修了した者は、修了後1年以上の臨床心理に関わる実務経験を得た後、臨床心理士試験の受験資格を得ることができます。

表 臨床心理士試験受験資格を取得するために必要な履修科目

区分	科目
必修	臨床心理学特論Ⅰ
必修	臨床心理学特論Ⅱ
必修	臨床心理面接特論Ⅰ（心理支援に関する理論と実践）
必修	臨床心理面接特論Ⅱ
必修	臨床心理査定演習Ⅰ（心理的アセスメントに関する理論と実践）
必修	臨床心理査定演習Ⅱ
必修	臨床心理基礎実習Ⅰ
必修	臨床心理基礎実習Ⅱ
必修	臨床心理実習Ⅰ（心理実践実習）
必修	臨床心理実習Ⅱ
必修	臨床心理実習Ⅲ（心理実践実習）
選択必修A	課題研究Ⅰ
選択必修A	課題研究Ⅱ
選択必修A	課題研究Ⅲ
選択必修B	人格心理学特論
選択必修B	発達心理学特論
選択必修B	認知科学特論
選択必修B	生涯発達心理学特論
選択必修B	学校臨床心理学特論（教育分野における理論と支援の展開）
選択必修B	メンタルヘルス教育特論（心の健康教育に関する理論と実践）
選択必修C	社会心理学特論
選択必修C	産業心理学特論（産業・労働分野に関する理論と支援の展開）
選択必修C	家族心理学特論（家族関係・集団・地域社会における心理的支援に関する理論と実践）
選択必修C	犯罪心理学特論（司法・犯罪分野に関する理論支援の展開）
選択必修D	精神医学特論（保健医療分野における理論と支援の展開）
選択必修D	障害児心理学Ⅰ特論（福祉分野に関する理論と支援の展開）
選択必修E	心理療法特論Ⅰ
選択必修E	心理療法特論Ⅱ
選択必修E	投影法特論

注1：この表にある必修科目全てと、選択必修科目A～Eのそれぞれについて1科目以上単位を取得する必要があります。

注2：必修科目および選択必修科目Eは、臨床心理学分野以外の学生が授業を履修することはできません。

VII 関係規程

- 1 新潟大学大学院総合学術研究科における長期にわたる教育課程の履修に関する細則
- 2 新潟大学大学院総合学術研究科に係る授業科目の成績評価に対する不服申し立て等に関する要項

1 新潟大学大学院総合学術研究科における長期にわたる教育課程の履修に関する細則

(令和8年4月1日院総細則第2号)

(趣旨)

第1条 この細則は、新潟大学大学院総合学術研究科規程(令和8年院総規程第1号)第8条第2項の規定に基づき、新潟大学大学院総合学術研究科(以下「研究科」という。)における長期にわたる教育課程の履修(以下「長期履修」という。)に関し必要な事項を定めるものとする。

(資格)

第2条 長期履修を希望できる者は、次の各号のいずれかに該当する者とする。

- (1) 職業を有し就業している者(自営業及び臨時雇用を含む。)
- (2) 出産、育児又は親族の介護を行う必要がある者
- (3) 心身に障がいがある者
- (4) その他研究科が長期履修の必要があると認める者

(申請手続)

第3条 長期履修を希望する者は、入学時にあっては入学手続期間内に、入学後にあっては学年末に、次に掲げる書類を研究科長に提出しなければならない。

- (1) 長期教育課程履修申請書(別記様式)
- (2) 前条第1項各号に掲げる資格のうち自身が該当するものを証明する書類

2 長期履修を申請できる者は、申請時に修了年次前の学生に限る。

(承認)

第4条 長期履修の承認は、前条の申請があったときに教授会の議を経て、研究科長が行う。

2 研究科長は、前項の規定により長期履修を承認した場合は、長期履修に係る履修計画並びに授業料及びその徴収方法等について、長期履修を承認した者(以下「長期履修学生」という。)に通知するものとする。

(履修)

第5条 長期履修学生は、研究科が定めた履修計画に従い、計画的な履修を行わなければならない。

(長期履修の期間)

第6条 長期履修できる期間は、3年又は4年とする。ただし、在学中に長期履修を希望する場合は、既に在学している期間を含む。

2 長期履修の期間は、研究科の標準修業年限の年数とみなし、在学年限を算定する。

3 長期履修学生が長期履修の期間の変更を希望する場合は、研究科長に願い出て、許可を得なければならない。

4 許可された長期履修の期間は、その後の修学状況により延長又は短縮することができる。

(雑則)

第7条 この細則に定めるもののほか、長期履修に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この細則は、令和8年4月1日から施行する。

2 新潟大学大学院総合学術研究科に係る授業科目の成績評価に対する不服申し立て等に関する要項

(令和8年4月1日大学院総合学術研究科長裁定)

第1 趣旨

この要項は、大学院総合学術研究科(以下「研究科」という。)に係る授業科目の成績評価に対する不服申し立て等に関し、必要な事項を定めるものとする。

第2 疑義照会

- 1 学生は成績評価に対して疑義がある場合は、成績評価に関する確認依頼書(別記様式第1号)に必要な事項を記入し、成績確認表を添えて、大学院総合学術研究科学務委員長(以下「学務委員長」という。)へ申し出ることができる。この場合の提出先は学生が所属する研究科の専攻を担当する学務係(以下「学務係」という。)とする。
- 2 学生からの申し出があったときは、学務委員長は速やかに授業担当教員へこれを通知する。
- 3 授業担当教員は、学務委員長から通知を受けた日から7日以内に、別記様式第1号に必要な事項を記載し、学務委員長に回答しなければならない。
- 4 学務委員長は、授業担当教員から受理した回答を速やかに学生へ通知する。
- 5 成績に対する疑義照会は、研究科が別に定める期間に行わなければならない。

第3 不服申し立て

- 1 疑義照会の回答に不服があるときは、学生は大学院総合学術研究科長(以下「研究科長」という。)に対し不服を申し立てることができる。
- 2 不服を申し立てようとする学生は、成績評価に関する不服申立書(別記様式第2号)に必要な事項を記入し、別記様式第1号を添えて、研究科長に申し立てなければならない。この場合の提出先は学務係とする。
- 3 不服申し立ての期限は、疑義照会の回答を受け取った日から原則として5日以内(日曜日、土曜日及び国民の祝日に関する法律(昭和23年法律第178号)に規定する休日は含めない。)とする。
- 4 学生からの不服申し立てを受理した研究科長は、大学院総合学術研究科学務委員会に審査を付託する。
- 5 審査の結果は、速やかに授業担当教員及び学生に通知する。
- 6 成績評価に関する不服申立書及び手続きに関連する書類の管理は、学務係で行う。

附 則

この要項は、令和8年4月1日から実施する。

VIII 特色ある教育プログラム

Ⅷ 特色ある教育プログラム

総合学術研究科（修士課程）では、学問分野・領域が明確に定まっている学位プログラムとして人間文化科学プログラム、現代社会科学プログラム、物質創成・基礎科学プログラム、システム創成科学プログラム、生命環境・食料科学プログラムの5つのプログラムと、研究テーマが学際性や融合性を志向する学位プログラムとしてアニメ・映像資源科学プログラム、日本酒学プログラム、情報社会デザイン科学プログラム、カーボンニュートラル融合科学プログラム、フィールド科学プログラム及びひと脳・健康科学プログラム、の合計13のプログラム（※）を設置しています。

学生はこれら13のプログラムのいずれかに所属し、学位の取得を目指しますが、所属の枠にとどまらず、社会からの新たな要請に応えることができる人材育成教育を展開するため、総合学術研究科（修士課程）では「特色ある教育プログラム」として次ページに記載のプログラムを実施しています。これらは、学位取得のために必要となる授業科目の履修という目的とは異なり、専門分野の枠を超えた学際的な知識や実践力を養成し、地域社会や国際的な課題解決に貢献できるより高度な人材の育成を目的としています。

特色ある教育プログラムとして実施しているプログラムの履修科目は、総合学術研究科自然科学専攻の「特別履修コース科目群」のほか、「学位共通科目群」や「プログラム専門科目群」からも指定されています。また、修得した単位の一部は、大学院修了に必要な単位数に加えることができます。各プログラムの詳細については、各要項を参照してください。

- 1 食づくり実践型農と食のスペシャリスト養成プログラム
- 2 グローバル農力養成プログラム
- 3 地域協働によるグローバル・ドミトリー・プログラム
- 4 グローバルフィールド科学人材育成プログラム
- 5 カザフスタンにおける高度農業人材育成プログラム
- 6 医学物理人材育成プログラム
- 7 保健理工学プログラム
- 8 原子力規制学・災害リスクマネジメントプログラム
- 9 実践的社会連携力を有する高度国際理工系人材育成プログラム

○新潟大学大学院総合学術研究科における「食づくり実践型農と食のスペシャリスト養成プログラム」において認定される「農と食のスペシャリスト」に関する規程

(平成 21 年 11 月 27 日規程第 51 号)

(趣旨)

第 1 条 この規程は、新潟大学大学院総合学術研究科(以下「総合学術研究科」という。)修士課程自然科学専攻生命環境・食料科学プログラムに在籍する学生を対象に、グローバルな視点を持ちつつ農と食に関わる現代の問題に広く対応可能な専門職業人を養成することを目的として実施する「食づくり実践型農と食のスペシャリスト養成プログラム」(以下「プログラム」という。)において認定される「農と食のスペシャリスト」(以下「スペシャリスト」という。)に関し必要な事項を定めるものとする。

(スペシャリスト指導委員会)

第 2 条 プログラムを履修する学生に係る研究等の指導を行うため、スペシャリスト指導委員会(以下「指導委員会」という。)を置く。

2 指導委員会は、学生ごとに主指導教員 1 人及び副指導教員 2 人をもって組織する。

(スペシャリストの認定要件)

第 3 条 スペシャリストの認定を受ける学生は、所属する課程の修了要件を満たした上で、別表に掲げる授業科目を履修し、その単位を修得していなければならない。

(スペシャリストの認定)

第 4 条 スペシャリストの認定は、総合学術研究科運営委員会の議を経て研究科長が行う。

2 研究科長は、前項によりスペシャリストの認定を行ったときは、学長に報告するものとする。

(スペシャリストの称号)

第 5 条 スペシャリストに認定された者に付与する称号は、「農と食のスペシャリスト」とする。

(スペシャリストの認定証書の授与)

第 6 条 学長は、第 4 条第 2 項による報告に基づき、スペシャリストの認定を受けた者にスペシャリスト認定証書(別記様式)を授与する。

(雑則)

第 7 条 この規程に定めるもののほか、スペシャリストに関し必要な事項は、別に定める。

附 則

1 この規程は、令和 8 年 4 月 1 日から施行する。

2 自然科学研究科生命・食料科学専攻博士前期課程に在籍する学生の取扱いについては、改正後の規定にかかわらず、自然科学研究科が存続する間、なお従前の例による。

別表(第 3 条関係)

授業科目	単位数	プログラム修了に必要な単位数	
		必修	選択必修
実践型食づくりプロジェクト(日本酒)	2	2(プログラムが開設する特定のプロジェクトに参加するものとする。)	
実践型食づくりプロジェクト(ライス)	2		
実践型食づくりプロジェクト(バイテク)	2		
実践型食づくりプロジェクト(いもジェンヌ)	2		
実践型食づくりプロジェクト(ミルク)	2		

企画実践型インターンシップ	1		1
食づくり国際インターンシップ	1		
英語論文作成・発表演習	1	1	
食の安全・安心論	1	1	
先端的農業技術論	1	1	
食品加工技術論	1	1	
地域食品産業論	2	2	
小計		8	1
合計		9	

別記様式(第6条関係)

農と食のスペシャリスト認定証書

第 号
農と食のスペシャリスト認定証書
総合学術研究科修士課程自然科学専攻 生命環境・食料科学プログラム 修了
<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> 大学印 氏 名 </div> <div style="text-align: center; margin-top: 10px;"> 年 月 日生 </div>
<p>本学大学院総合学術研究科において「食づくり実践型農と食のスペシャリスト養成プログラム」を修了したので「農と食のスペシャリスト」の称号を授与する</p>
年 月 日
新潟大学大学院総合学術研究科長 ○○○○ 印
新潟大学長 ○○○○ 印

(注)用紙の大きさは、A4判とする。

○新潟大学大学院総合学術研究科における「グローバル農力養成プログラム」実施要項

(令和8年4月1日総合学術研究科長裁定)

第1 趣旨

この要項は、新潟大学大学院総合学術研究科(以下「総合学術研究科」という。)における「グローバル農力養成プログラム」(以下「プログラム」という。)の実施に関し、必要な事項を定める。

第2 目的

プログラムは、世界の経験・知識を尊重する農食技術について、様々な困難な課題に対し、グローバルな視点でしなやかに対処できる能力(レジリエンス)を身につけた農学人材を育成することを目的とする。

第3 プログラム

経験・知識と先端技術の融合による、レジリエントな農学人材を育成するため、次の表に掲げる短期・中期・長期の各プログラムにより教育を行う。

プログラム名称
グローバル農力養成プログラム(短期)
グローバル農力養成プログラム(中期)
グローバル農力養成プログラム(長期)

第4 対象学生

プログラムを履修することができる学生は、次のいずれかに該当する学生とする。

- (1) 総合学術研究科修士課程自然科学専攻に在籍する学生
- (2) 他の大学の大学院に在籍し、総合学術研究科運営委員会において履修を許可された学生

第5 プログラムの修了認定

- 1 プログラムの修了認定を受ける学生は、新潟大学大学院総合学術研究科規程(令和8年4月1日院総規程第1号)第9条第1項に規定する次の授業科目の単位を修得しなければならない。

プログラム名称	授業科目	単位
グローバル農力養成プログラム(短期)	グローバル農力(短期)	2
グローバル農力養成プログラム(中期)	グローバル農力国際キャリア実習(中期)	1
	グローバル農力国際特別研究(中期)	2
グローバル農力養成プログラム(長期)	グローバル農力国際キャリア実習(長期)	2
	グローバル農力国際特別研究(長期)	4

- 2 プログラムの修了認定を受けた学生は、既に単位を修得したプログラムに関する授業科目を再履修することができる。ただし、同一プログラムを重複して修了認定を受けることができないものとする。

第6 修了証書の授与

大学院総合学術研究科長は、プログラムを修了した者に、認定証(別記様式)を授与する。

第7 雑則

この要項に定めるもののほか、プログラムの実施に関し必要な事項は別に定める。

附 則

この要項は、令和8年4月1日から実施する。

認 定 証

〇〇大学大学院〇〇研究科〇〇課程

氏 名

年 月 日生

新潟大学大学院総合学術研究科において「グローバル農力養成プログラム（〇期）」
を修了したことを認定する。

年 月 日

新潟大学大学院総合学術研究科長 〇〇〇〇 印

Certificate of Completion

This is to certify that

氏 名

(Born on 生年月日)

A 〇〇〇 student

At the Graduate School of 〇〇, 〇〇University

Has successfully completed

The Global Agriculture and Food Science Program (〇〇-Term Exchange Program)

At the Graduate School of Integrated Arts and Sciences

Niigata University, Japan

署名

研究科長名

Dean, Graduate School of Integrated Arts and Sciences

Niigata University

認定日

A4 版とする。

○新潟大学大学院総合学術研究科における「地域協働によるグローバル・ドミトリー (G-DORM) プログラム」実施要項

(令和8年4月1日総合学術研究科長裁定)

第1 趣旨

この要項は、新潟大学大学院総合学術研究科(以下「総合学術研究科」という。)における「地域協働によるグローバル・ドミトリー (G-DORM) プログラム」(以下「プログラム」という。)の実施に関し、必要な事項を定める。

第2 目的

プログラムは、新潟地域及び国際社会の課題を連結的に理解し、産業黎明期から高度国際化まで貢献可能な実践的能力を涵養し、地域創生課題の解決能力と融合的視点を持つ理工系グローバルリーダー人材を育成することを目的とする。

第3 プログラム

第2に掲げる人材を育成するため、短期、中期及び長期に区分したプログラムにより教育を行う。

第4 対象学生

プログラムを履修することができる学生は、次のいずれかに該当する学生とする。

- (1) 総合学術研究科修士課程に在籍する学生
- (2) 他の大学の大学院に在籍し、新潟大学のグローバル・ドミトリー (G-DORM) プログラム実施委員会において履修を許可された学生

第5 プログラムの修了認定

- 1 プログラムの修了認定を受ける学生は、新潟大学大学院総合学術研究科規程(令和8年4月1日院総規程第1号)第9条第1項に規定する次の授業科目又はグローバル・ドミトリー (G-DORM) プログラム実施委員会が別に定める地域文化理解科目の授業科目の単位を修得しなければならない。

プログラム 区分	授業科目	単 位 数	プログラム修了に必要な 単位数	
			選択必修	選択
短期	先端的国際テクノロジー・グループワーク・インターンシップ S	2	2 単位以上	
	先端的国際マーケット・グループワーク・インターンシップ S	2		
	合計			
中期	先端的国際テクノロジー・グループワーク・インターンシップ S	2	3 単位以上	
	先端的国際テクノロジー・グループワーク・インターンシップ A	3		
	先端的国際マーケット・グループワーク・インターンシップ S	2		
	先端的国際マーケット・グループワーク・インターンシップ A	3		
	先端的国際工学概論	1	1 単位以上	
	先端的国際工学事情	1		

	先端的国際工学特論 I	2		
	先端的国際工学特論 II	2		
	先端的国際技術協力	1		
	理工系グローバルドミトリー特別研究 A	1		
	理工系グローバルドミトリー発表演習・発表	1		
	実践的 PBL ファシリテーション工学演習	2		
	先端的国際リサーチ・インターンシップ	2		
	自然科学専攻科目			
	地域文化理解科目			
	合計		4 単位以上	
長期	先端的国際テクノロジー・グループワーク・インターンシップ S	2	4 単位以上	
	先端的国際テクノロジー・グループワーク・インターンシップ A	3		
	先端的国際テクノロジー・グループワーク・インターンシップ B	4		
	先端的国際マーケット・グループワーク・インターンシップ S	2		
	先端的国際マーケット・グループワーク・インターンシップ A	3		
	先端的国際マーケット・グループワーク・インターンシップ B	4		
	グローバル PBL	1		
	先端的国際工学概論	1		
	先端的国際工学事情	1		
	先端的国際工学特論 I	2		
	先端的国際工学特論 II	2		
	先端的国際技術協力	1		
	理工系グローバルドミトリー特別研究 B	2		
	理工系グローバルドミトリー特別研究 C	4		
	理工系グローバルドミトリー・セミナーA	1		
	理工系グローバルドミトリー・セミナーB	2		
	理工系グローバルドミトリー発表演習・発表	1		
	実践的 PBL ファシリテーション工学演習	2		
	先端的国際リサーチ・インターンシップ	2		
自然科学専攻科目				
地域文化理解科目				
	合計		8 単位以上	

2 プログラムの修了認定を受けた学生は、その修了認定を受けたプログラム区分の修了認定を重複して受けることができないものとする。

第6 修了証書の授与

大学院総合学術研究科長は、プログラムを修了した者に、認定証(別記様式)を授与する。

第7 雑則

この要項に定めるもののほか、プログラムの実施に関し必要な事項は別に定める。

附 則

この要項は、令和8年4月1日から実施する。

別記様式(第6 関係) A4 版とする。

第 号
認 定 証
○○大学大学院○○研究科○○課程 氏 名 年 月 日生
新潟大学大学院総合学術研究科において「地域協働によるグローバル・ドミトリー・プログラム(○期・修士課程)」を修了したことを認定する。
年 月 日
新潟大学大学院総合学術研究科長 ○○○○ 印
Certificate of Completion
This is to certify that
氏 名 (Born on 生年月日)
A student at the Graduate School of ○○, ○○ University Has successfully completed G-DORM Exchange Program (○○-Term, Master's Program) At the Graduate School of Integrated Arts and Sciences Niigata University, Japan
署名 研究科長名 Dean, Graduate School of Integrated Arts and Sciences Niigata University 認定日

○新潟大学大学院総合学術研究科における「グローバルフィールド科学人材育成プログラム」実施要項

(令和8年4月1日総合学術研究科長裁定)

第1 趣旨

この要項は、新潟大学大学院総合学術研究科(以下「総合学術研究科」という。)における「グローバルフィールド科学人材育成プログラム」(以下「プログラム」という。)の実施に関し、必要な事項を定める。

第2 目的

プログラムは、グローバルな観点で環境保全と産業発展との両立へ向けた課題を抽出し、持続可能社会の構築に寄与する解決策を提示できる、リーダー的かつプランナー的なグローバルフィールド科学人材を育成することを目的とする。

第3 プログラム

自然・文化・社会との調和を図り、SDGsに準拠した自然資源の活用を立案できるフィールド科学人材を育成するため、次の表に掲げる短期・中期・長期の各プログラムにより教育を行う。

プログラム名称
グローバルフィールド科学人材育成プログラム(短期)
グローバルフィールド科学人材育成プログラム(中期)
グローバルフィールド科学人材育成プログラム(長期)

第4 対象学生

プログラムを履修することができる学生は、次のいずれかに該当する学生とする。

- (1) 新潟大学大学院に在籍する学生
- (2) 他の大学の大学院に在籍し、総合学術研究科運営委員会において履修を許可された学生

第5 プログラムの修了認定

- 1 プログラムの修了認定は、別表に掲げる授業科目の単位を修得した者に対して行う。
- 2 プログラムの修了認定を受けた学生は、既に単位を修得したプログラムに関する授業科目を再履修することができる。ただし、同一プログラム区分を重複して修了認定を受けることができないものとする。

第6 修了証書の授与

総合学術研究科長は、プログラムを修了した者に、認定証(別記様式)を授与する。

第7 雑則

この要項に定めるもののほか、プログラムの実施に関し必要な事項は別に定める。

附 則

この要項は、令和8年4月1日から実施する。

別表(第5 関係)

プログラム 区分	授業科目	単位	プログラム修了に必要な単位数	
			必修	選択
短期	地球環境科学特論	1	1	
	地球環境フィールド科学演習	2		1 単位以上
	海外フィールド体験実習	2		
	フィールド産業インターンシップ	1		
	合計			2 単位以上
中期	地球環境科学特論	1	1	
	地球環境フィールド科学演習	2		2 単位以上
	海外フィールド体験実習	2		
	フィールド産業インターンシップ	1		
	海外フィールド科学実習 A	2	2	
	合計			5 単位以上
長期	地球環境科学特論	1	1	
	地球環境フィールド科学演習	2		3 単位以上
	海外フィールド体験実習	2		
	フィールド産業インターンシップ	1		
	海外フィールド科学実習 B	4	4	
	合計			8 単位以上

認 定 証

〇〇大学大学院〇〇研究科〇〇課程

氏 名

年 月 日生

新潟大学大学院総合学術研究科において「グローバルフィールド科学人材育成プログラム（〇期）」を修了したことを認定する。

年 月 日

新潟大学大学院総合学術研究科長 〇〇〇〇 印

Certificate of Completion

This is to certify that

氏 名

(Born on 生年月日)

A 〇〇〇 student

at the Graduate School of 〇〇, 〇〇 University

has successfully completed

Global Field Science Research Program (〇〇-Term Exchange Program)

at the Graduate School of Integrated Arts and Sciences

Niigata University, Japan

署名

研究科長名

Dean, Graduate School of Integrated Arts and Sciences

Niigata University

認定日

A4 版とする。

○新潟大学大学院総合学術研究科カザフスタンにおける高度農業人材育成プログラムに関する取扱要項

(令和8年4月1日総合学術研究科長裁定)

第1 趣旨

この要項は、新潟大学大学院総合学術研究科カザフスタンにおける高度農業人材育成プログラム(以下「プログラム」という。)に関し、必要な事項を定める。

第2 目的

プログラムは、カザフスタン及びCIS諸国における気候変動に対応した作物育種・病害虫管理並びにスマート農業に代表される栽培管理、農業部門の生産基盤、農林畜産物の高品質化と高付加価値化、農林産物流通に貢献できる高度農業人材育成を図ると共に、他国での農業人材育成に貢献できる日本人専門家を育成することを目的とする。

第3 対象学生

プログラムを履修することができる学生は、次の表に掲げる専攻及び学位プログラムに在籍する学生とする。

専攻	学位プログラム
自然科学専攻	生命環境・食料科学プログラム
	フィールド科学プログラム

第4 修了に必要な授業科目の単位数

修了に必要な授業科目の単位数は、新潟大学大学院総合学術研究科規程(令和8年4月1日院総規程第1号)第9条第2項に規定するとおりとする。

第5 雑則

この要項に定めるもののほか、プログラムの実施に関し必要な事項は別に定める。

附 則

この要項は、令和8年4月1日から実施する。

○新潟大学大学院総合学術研究科における「医学物理人材育成プログラム」実施要項

(令和8年4月1日総合学術研究科長裁定)

第1 趣旨

この要項は、新潟大学大学院総合学術研究科(以下「総合学術研究科」という。)における「医学物理人材育成プログラム」(以下「プログラム」という。)の実施に関し、必要な事項を定める。

第2 目的

プログラムは、物理学の概念と方法の理解を元にして医学物理学分野における様々な課題に対応可能な人材を育成することを目的とする。

第3 対象学生

プログラムを履修する学生の対象は、総合学術研究科修士課程自然科学専攻物質創成・基礎科学プログラムに在籍する学生とする。

第4 プログラム履修手続

プログラムの履修を希望する学生は、別に定めるプログラム履修申込書を総合学術研究科長(以下「研究科長」という。)に所定の期間内に提出する。

第5 プログラム指導委員会

- 1 プログラムの履修を許可された学生の履修に係る指導を行うため、医学物理学プログラム指導委員会(以下「指導委員会」という。)を置く。
- 2 指導委員会は、学生ごとに主指導教員と副指導教員をもって組織する。

第6 プログラムの修了要件

プログラムの修了に必要な授業科目の単位数は、別表1に掲げるとおりとする。

第7 プログラムの修了認定

- 1 プログラムの修了認定は、総合学術研究科修士課程自然科学専攻物質創成・基礎科学プログラムの修了要件を満たした上で、別表1に掲げる授業科目の単位を修得した者に対して行う。
- 2 別表1に掲げる授業科目のうち、新潟大学(以下「本学」という。)の学部在籍時に修得した授業科目の単位を、プログラムの修了に必要な単位数に含めることができる。
- 3 修了認定は、指導委員会の議を経て、研究科長が行う。

第8 修了認定証の授与

研究科長は、プログラムを修了した者に、認定証(別記様式)を授与する。

第9 雑則

この要項に定めるもののほか、プログラムの実施に関し必要な事項は別に定める。

附 則

この要項は、令和8年4月1日から実施する。

別表 1(第 6 関係)

科目区分	授業科目	単位数	プログラム修了に必要な単位数	
			必修	選択必修
医学物理基礎科目	医学物理学総論	2	2	
医学物理基礎コア科目	放射線物理学特論	2		2
	放射線防護学特論	2		
	放射線計測学特論	2		
	放射線関連法規	2		
医学物理コア科目	放射線腫瘍学特論	2		2
	放射線腫瘍学演習	2		
	医学物理学特論	2		
	医学物理学概論	2		
	医用放射線機器科学特論	2		
	医用放射線機器科学演習	2		
	医用画像情報学特論	2		
	医用画像情報学演習	2		
医学物理基礎放射線技術系科目	別表 1A			4
小計			2	8
合計				10

別表 1A 医学物理基礎放射線技術系科目

授業科目名
放射線生物学及び演習
診療画像機器学Ⅰ
診療画像機器学Ⅱ
放射線機器工学Ⅰ
放射線機器工学Ⅱ
診療画像機器学演習
医用機器工学及び演習
医療画像工学Ⅰ
医療画像工学Ⅱ
医用画像工学
核医学検査技術学Ⅰ
核医学検査技術学Ⅲ
放射線治療技術学Ⅰ
放射線治療技術学Ⅱ
放射線治療技術学Ⅲ
人体の構造と機能Ⅰ
人体の構造と機能Ⅱ
疾病の原因と成り立ち

第 号

認 定 証

総合学術研究科修士課程
自然科学専攻
物質創成・基礎科学プログラム修了

氏 名
年 月 日生

本研究科において「医学物理人材育成プログラム(修士課程)」を修了した
ことを認定する。

年 月 日

新潟大学大学院総合学術研究科長 ○○○○ 印

A4版とする。

○新潟大学大学院総合学術研究科における「保健理工学プログラム」実施要項

(令和8年4月1日総合学術研究科長裁定)

第1 趣旨

この要項は、新潟大学大学院総合学術研究科(以下「総合学術研究科」という。)における「保健理工学プログラム」(以下「プログラム」という。)の実施に関し、必要な事項を定める。

第2 目的

プログラムは、電気情報工学の概念と方法の理解を基にし、保健理工学分野における様々な課題に対応可能な人材を育成することを目的とする。

第3 対象学生

プログラムを履修することができる学生は、総合学術研究科修士課程自然科学専攻システム創成科学プログラムに在籍する学生とする。

第4 プログラム履修手続

プログラムの履修を希望する学生は、別に定めるプログラム履修申込書を総合学術研究科長(以下「研究科長」という。)に所定の期限内に提出する。

第5 プログラム指導委員会

- 1 プログラムの履修を許可された学生の履修に係る指導を行うため、保健理工学プログラム指導委員会(以下「プログラム指導委員会」という。)を置く。
- 2 プログラム指導委員会は、総合学術研究科所属の教員と大学院医歯保健学研究科所属の両方の教員をもって組織する。

第6 プログラムの修了要件

- 1 プログラムの修了認定を受ける学生は、新潟大学大学院総合学術研究科規程(令和8年4月1日院総規程第1号)第18条に規定する修了要件を満たした上で、別表第1、第2及び第3に掲げる授業科目を履修し、その単位を修得した者に対して行う。
- 2 前項の履修にあたっては、別表に定める授業科目の履修のほか、融合分野の研究に従事することを推奨する。

第7 プログラムの修了認定

プログラムの修了認定は、プログラム指導委員会の議を経て、研究科長が行う。

第8 修了認定証の授与

研究科長は、プログラムを修了した者に、修了認定証(別記様式)を授与する。

第9 雑則

この要項に定めるもののほか、プログラムの実施に関し必要な事項は別に定める。

附 則

この要項は、令和8年4月1日から実施する。

別表第1(第6関係)

科目区分	授業科目	単位数	プログラム修了に必要な単位数	
			必修	選択必修
共通基礎コア科目	保健理工学概論	2	2単位	
専門コア科目(自然系)	指導教員が指定する科目(別表第2)			2単位以上
専門コア科目(保健学系)	(別表第3)			2単位以上
小計			2単位以上	4単位以上
合計			6単位以上	

別表第2(第6関係)

専門コア科目(自然系)

区分	科目名	単位数
専門科目	生体情報工学特論	2
	神経生理工学特論	2
	支援システム特論	2
	運動生理学特論	2
	音声聴覚情報処理特論	2
	コミュニケーション支援特論	2
	視覚情報処理特論	2
	立体造形特論	2
	デザイン表現特論	2
	演奏表現特論	2
	分子生体機能工学特論	2
	液体物理学特論	2

別表第3(第6関係)

専門コア科目(保健学系)

区分	科目名	単位数
共通科目	臨床薬理学	2
	病態生理学	2
専門科目	基礎看護学特論V	2
	成人・老年看護学特論II	2
	成人・老年看護学特論IV	2
	がん看護学特論I	2
	がん看護学特論II	2
	生体構造機能解析工学特論	2
	生体構造機能解析工学演習	2
	臨床画像医学特論	2
	臨床画像医学演習	2
	医用画像情報学特論	2
	医用画像情報学演習	2

第 号

認 定 証

総合学術研究科修士課程
自然科学専攻
システム創成科学プログラム修了

氏 名
年 月 日生

本研究科において「保健理工学人材育成プログラム」を修了したことを認定する。

年 月 日

新潟大学大学院総合学術研究科長 ○○○○ 印

A4 版とする。

○新潟大学大学院総合学術研究科における「原子力規制学・災害リスクマネジメントプログラム」実施要項

(令和8年4月1日総合学術研究科長裁定)

第1 趣旨

この要項は、新潟大学大学院総合学術研究科(以下「総合学術研究科」という。)における「原子力規制学・災害リスクマネジメントプログラム」(以下「プログラム」という。)の実施に関し、必要な事項を定める。

第2 目的

プログラムは、放射線・原子力に関する高度な科学技術と規制についての知見に加えて、地震、火山活動、水害等の自然災害及び防災並びに社会基盤構造の脆弱性の解析及び強靱化への技術解析並びに災害医療に専門性を有し、将来、原子力規制庁の検査官等任用資格における原子力安全審査資格を持つ検査官等として高い倫理観を持って活躍する人材を育成することを目的とする。

第3 対象学生

プログラムを履修することができる学生は、総合学術研究科修士課程に在籍する学生とする。

第4 履修手続

プログラムの履修を希望する学生は、別に定めるプログラム履修申込書を、総合学術研究科長(以下「研究科長」という。)に所定の期限までに提出する。

第5 プログラムの修了認定

- 1 プログラムの修了認定は、新潟大学大学院総合学術研究科規程(令和8年4月1日院総規程第1号)第18条に規定する修了要件を満たした上で、別表1に掲げる授業科目について、別表2に掲げる単位数を修得した者に対して行う。
- 2 別表2に掲げる授業科目のうち、新潟大学(以下「本学」という。)の学部在籍時に修得した授業科目の単位数を、プログラムの修了に必要な単位数に含めることができる。
- 3 プログラムの修了認定を希望する学生は、別に定めるプログラム認定申請書を、研究科長に所定の期限までに提出する。

第6 修了認定証の授与

研究科長は、プログラムを修了した者に、認定証(別記様式)を授与する。

第7 雑則

この要項に定めるもののほか、プログラムの実施に関し必要な事項は別に定める。

附 則

この要項は、令和8年4月1日から実施する。

別表1(第5関係)

科目区分	授業科目	単位	備考
原子力規制学ベーシック科目	原子力規制学総論	1	
	原子力規制キャリア教育	1	
	放射線計測実習	1	
	原子力と倫理	1	Gコード科目
原子力規制学科目	放射線物理学特論	2	

	放射線防護学特論	2	
	放射線計測学特論	2	
	放射線関連法規	2	
	原子核実験特論	2	
	実験核物理学概論	2	
	不安定核物理概論	2	
	原子力エネルギー特論	2	
自然災害学科目	火山災害特論	2	
	水災害特論	2	
	突発災害特論	1	
	第四紀・地盤災害特論	2	
	災害地球化学特論	2	
	斜面災害論	2	農学部科目
災害リスクマネジメント科目	森林保全工学特論	2	
	基盤施設工学特論	2	
	建築振動学特論	2	
	建築構造設計特論	2	
	農業水利調整論	2	
	海岸環境工学特論	2	
	コンクリート工学特論	2	
	計算力学特論	2	
	環境地盤学特論	2	
	森林空間計測学特論	2	
	リスクマネジメント特論	2	
	環境砂防学	2	農学部科目
	水環境工学	2	農学部科目
	コンクリート構造工学	2	工学部科目
	動力学	2	工学部科目
災害医療学科目	災害医療概論	1	Gコード科目
	原子力災害医療体制	1	Gコード科目
	災害医療ロジスティクス	1	Gコード科目

別表2(第5関係)

科目区分	プログラム修了に必要な単位数	
	必修	選択必修
原子力規制学ベーシック科目	4	
原子力規制学科目		4 単位以上
自然災害学科目		4 単位以上
災害リスクマネジメント科目		4 単位以上
災害医療学科目		1 単位以上
合計		20 単位以上

第 号

認 定 証

総合学術研究科修士課程

氏 名

年 月 日生

新潟大学大学院総合学術研究科において「原子力規制学・災害リスクマネジメントプログラム（修士課程）」を修了したことを認定する。

年 月 日

新潟大学大学院総合学術研究科長 ○○○○ 印

A4版とする。

○新潟大学大学院総合学術研究科「実践的社会連携力を有する高度国際理工系人材育成プログラム」に関する取扱要項

(令和8年4月1日大学院総合学術研究科長裁定)

第1 趣旨

この要項は、新潟大学大学院総合学術研究科(以下「総合学術研究科」という。)
「実践的社会連携力を有する高度国際理工系人材育成プログラム」(以下「プログラム」という。)に関し、必要な事項を定める。

第2 目的

プログラムは、既存の高度な理工系の教育研究内容に産学・地域協働のインターンシップ等の能動的学びを組み合わせることにより、国際的視野をもって産業や社会の実課題の解決に科学技術・知識を実践的に応用する力を有する高度理工系人材を育成することを目的とする。

第3 対象学生

プログラムを履修する学生の対象は、次の表に掲げる専攻及び学位プログラムに在籍する学生とする。

専攻	学位プログラム
自然科学専攻	物質創成・基礎科学プログラム システム創成科学プログラム 生命環境・食料科学プログラム 情報社会デザイン科学プログラム カーボンニュートラル融合科学プログラム

第4 プログラムの修了認定

プログラムの修了認定を受ける学生は、新潟大学大学院総合学術研究科規程(令和8年4月1日院総規程第1号)第18条に規定する修了要件を満たした上で、別表に掲げる授業科目を履修し、その単位を修得していなければならない。

第5 雑則

この要項に定めるもののほか、プログラムの実施に関し必要な事項は別に定める。

附 則

この要項は、令和8年4月1日から実施する。

別表(第4関係)

授業科目	単位数	プログラム修了に必要な単位数	
		選択必修	選択
先端的国際工学概論	1		2 単位 以上
先端的国際工学事情	1		
先端的国際工学特論 I	2		
先端的国際工学特論 II	2		
先端的国際技術協力	1		
実践的 PBL ファシリテーション工学演習	2		
先端的国際テクノロジー・グループワーク・インターンシップ S	2	4 単位 以上	
先端的国際テクノロジー・グループワーク・インターンシップ A	3		
先端的国際テクノロジー・グループワーク・インターンシップ B	4		
先端的国際マーケット・グループワーク・インターンシップ S	2		
先端的国際マーケット・グループワーク・インターンシップ A	3		
先端的国際マーケット・グループワーク・インターンシップ B	4		
グローバル PBL	1		
合計		6 単位以上	

Ⅸ 他大学院との単位互換

Ⅸ 他大学院との単位互換

本研究科の各専攻では、下記の大学大学院の関連研究科等と単位互換の協定を結んでいます。

学生は受入側大学院の特別聴講学生となります。履修期間は1年以内です。成績評価は受入側大学院が行い、本研究科の単位として認定されます。授業料の徴収はありません。

詳しくは所属専攻担当の学務係にお問い合わせください。

1 人文社会科学専攻

(1) 6 大学大学院間の単位互換協定

千葉大学大学院，金沢大学大学院，岡山大学大学院，香川大学大学院，熊本大学大学院

(2) 国際大学大学院との単位互換協定

国際大学大学院

2 自然科学専攻

(1) 5 大学大学院間の単位互換協定

金沢大学大学院，岡山大学大学院，長崎大学大学院，熊本大学大学院

(2) 4 大学大学院間の単位互換協定

長崎大学大学院，秋田大学大学院，秋田県立大学大学院